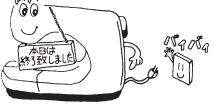
ご使用のしおり

《取扱説明書》

JANOME

安全上のご注意

◆ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
◆ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
◆お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに保管してください。
◆このミシンは、日本国内向け家庭用です。　For use in Japan only.

危害・損害の程度を表わす表示

警告　この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	注意　この表示の欄は「傷害を負う可能性および物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

本文中の図記号の意味

	△記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。 図の中には具体的な注意内容を表示しています。（左図の場合は一般的な注意）
	⃠記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。 図の中には具体的な禁止内容を表示しています。（左図の場合は分解禁止）
	●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。 図の中には具体的な指示内容を表示しています。（左図の場合は一般的な強制）

⚠ 警告　感電・火災の恐れがあります。

必ず実行

一般家庭用、交流電源 100 V でご使用ください。

必ずプラグを抜く

以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。
・ミシンのそばを離れるとき
・ミシンを使用したあと
・ミシン使用中に停電したとき

⚠ 注意　感電・火災・けがの原因となります。

分解禁止

お客様自身での分解はしないでください。

接触禁止

ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。

禁　止

ぬい中に布を無理に引っ張ったり、押したりしないでください。針が曲がり、針折れの原因になります。

禁　止

曲がったり、先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。

禁　止

フットコントローラーの上に物をのせないでください。

禁　止

プラグ受けに糸くずや、ほこりがたまらないようにしてください。

注　意

お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。

必ず実行

ミシン操作時は、面板などのカバー類を閉じてください。

必ず実行

針および押さえは、確実に固定してください。
また、押さえは、ぬいに合ったものをご使用ください。
針が押さえにあたり、けがの原因になります。

必ず実行

以下のことをするときには、電源スイッチを切ってください。
・押さえ、アタッチメントを交換するとき
・上糸、下糸をセットするとき

必ず実行

電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らずプラグを持って抜いてください。

必ずプラグを抜く

以下のことをするときには、電源スイッチを切って電源プラグを抜いてください。
・針、針板を交換するとき
・ランプを交換するとき（ランプが冷えてから行ってください。）
・ミシンのお手入れを行うとき

必ずプラグを抜く

ミシンに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてお買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。
・正常に作動しないとき
・水に濡れたとき
・落下などにより破損したとき
・異常な臭い・音がするとき
・電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき

目　次

●各部のなまえ 2
●補助テーブル 3
●標準付属品と収納場所 3
●電源のつなぎ方 4
★スタート／ストップボタンを使用する場合 ... 4
★フットコントローラーを使用する場合 4
●スタート／ストップボタン 5
●速さの調節のし方 5
★スピードコントロールつまみ 5
★フットコントローラー 5
●操作ボタンの主なはたらき .... 6～7
●ドロップつまみの使い方 8
●押さえの取りかえ方 8
●押さえホルダーの外し方、付け方 9
●押さえ上げ 9
●押さえ圧調節 9
●糸調子の合わせ方 10
★自動糸調子 10
★マニュアル糸調子 10
●針の取りかえ方 11
●布に適した糸や針を選ぶ目安 11
●下糸の準備をしましょう .... 12～14
★ボビンを取り出します 12
★糸こまをセットします 12
★ボビンに糸を巻きます 13
★ボビンを内がまにセットします 14
●上糸の準備をしましょう .... 15～17
★上糸のかけ方 15
★糸通しの使い方 16
★下糸を引きあげます 17
●直線ぬい .... 18～19
★ぬい始め 18
★厚手の布端のぬい始め 18
★ぬい方向の変更 18
★ぬい終わり 19
●針板ガイドラインの利用 19
●ぬい目の長さをかえるとき 20
●針位置をかえるとき 20
●直線状のぬい目 21
●ジグザグぬい 22
★ぬい目の幅・長さをかえるとき 22
●たち目かがり .... 23～24
●ボタンホール .... 25～31
★ボタンホールの種類 25
★ボタンホール# 16（スクエア）のぬい .... 26～28
★ぬい目の幅・ぬい目の長さをかえるとき 29
★ボタンホール重ねぬい 29
★ボタンホール# 17（ラウンド）、# 18（キーホール）のぬい 30
★ぬい目の幅をかえるとき 30
★ボタンホール #19(ニット)、# 21（薄地用）のぬい 31
★ボタンホール# 20（ニット）のぬい 31
●芯入りボタンホール 32
●ボタン付け 33
●ダーニング（つくろいぬい） 34
●ファスナー付け .... 35～36
●かんぬき止めぬい 37
●まつりぬい 38
●シェルタック 39
●密着模様ぬい 39
●アップリケ 40
●パッチワーク 40
●ピンタック 40
●キルティング 41
●止めぬいボタンを使った飾りぬい 41
●スーパー模様の形の整え方 42
●ランプの取りかえ方 42
●ミシンのお手入れ 43
★かまと送り歯の掃除 43
★内がまと針板の組み付け 43
●こんな表示が出た場合 44
★ブザー音の種類 44
●ミシンの調子が悪いときの直し方 45

お取り扱いについてのお願い

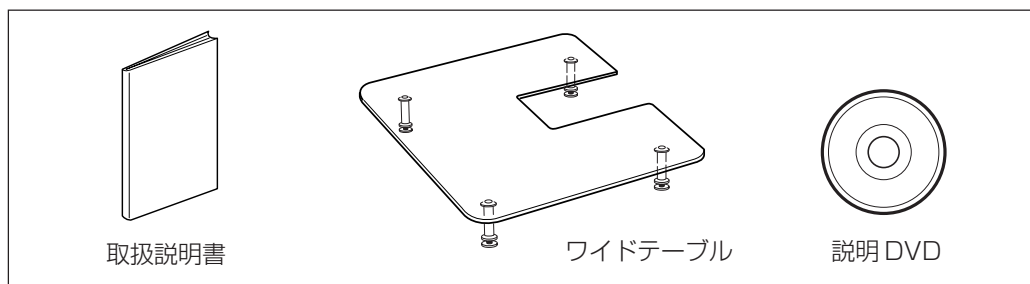
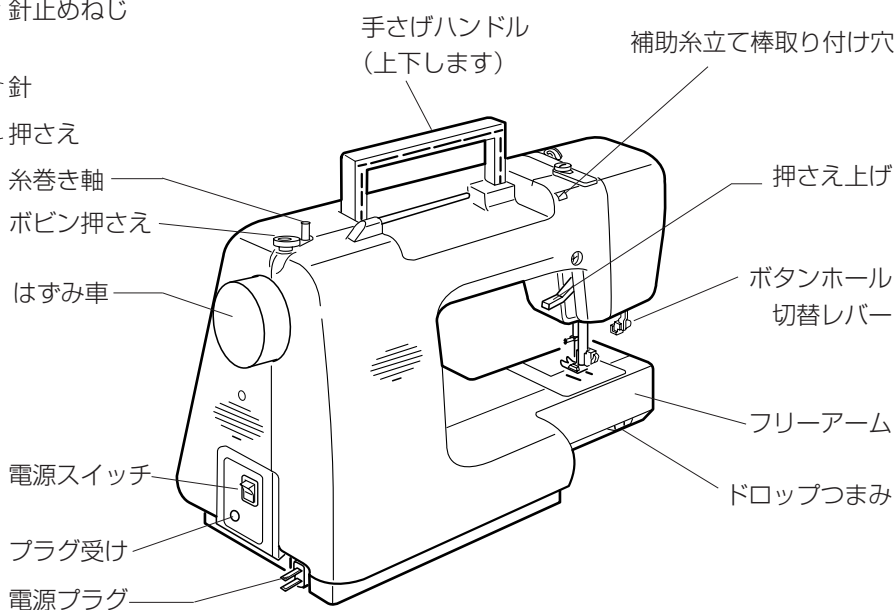
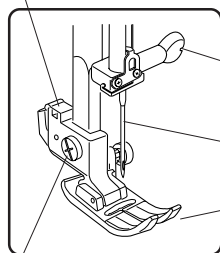
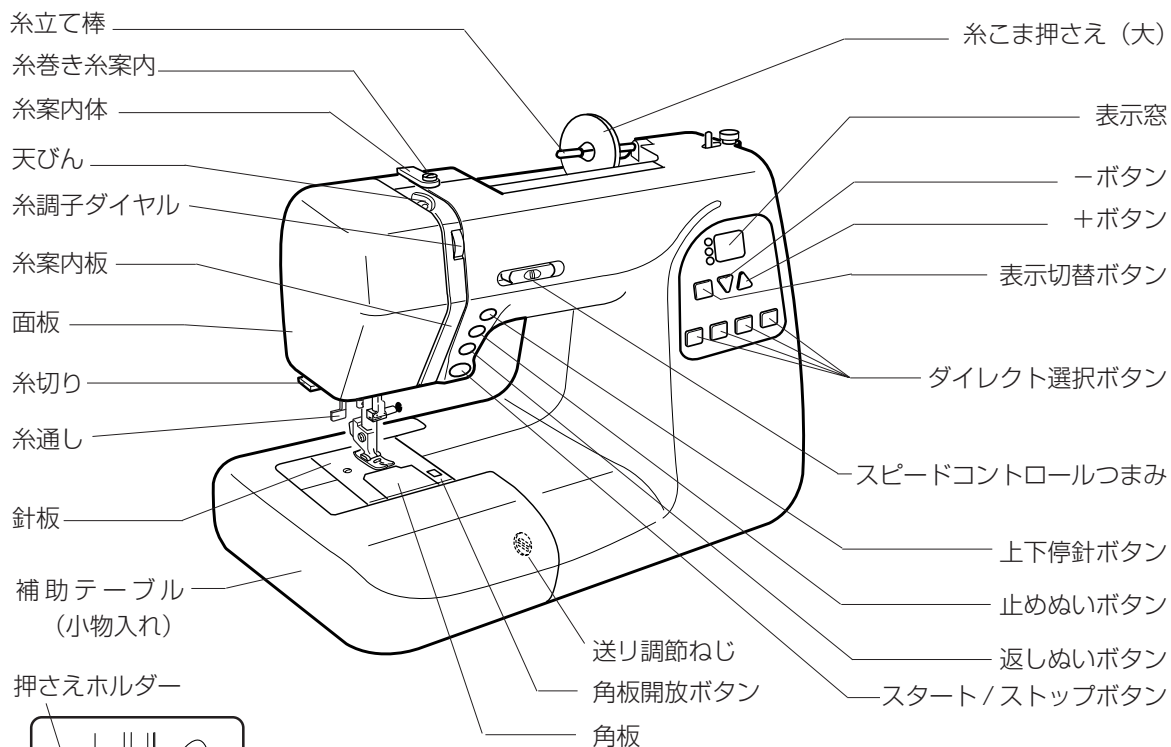
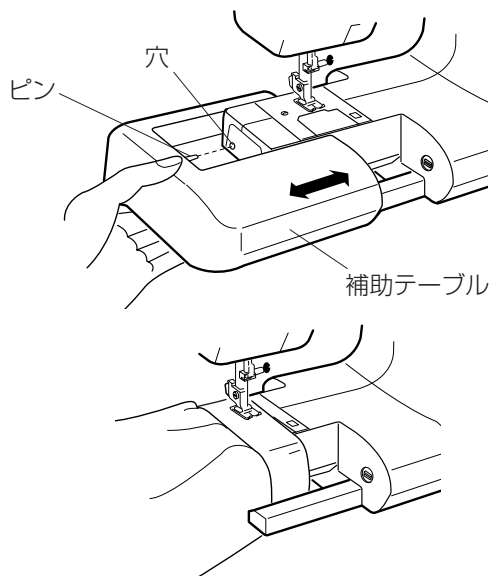
■ご使用の前に

① ほこりや油などで、ぬう布を汚さないように、使う前に乾いたやわらかい布でよくふいてください。
② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

■いつまでもご愛用いただくために

① 長時間日光に当てないでください。
② 湿気やほこりの多いところは避けてください。
③ 落としたり、ぶつけるなどの衝撃を与えないでください。

●各部のなまえ

糸立て棒
糸巻き糸案内
糸案内体
天びん
糸調子ダイヤル
糸案内板
面板
糸切り
糸通し
針板
補助テーブル
（小物入れ）
糸こま押さえ（大）
表示窓
－ボタン
＋ボタン
表示切替ボタン
ダイレクト選択ボタン
スピードコントロールつまみ
上下停針ボタン
止めぬいボタン
返しぬいボタン
スタート / ストップボタン
送り調節ねじ
角板開放ボタン
角板
押さえホルダー
針止めねじ
針
押さえ
押さえホルダー
止めねじ
糸巻き軸
ボビン押さえ
はずみ車
電源スイッチ
プラグ受け
電源プラグ
手さげハンドル
（上下します）
補助糸立て棒取り付け穴
押さえ上げ
ボタンホール
切替レバー
フリーアーム
ドロップつまみ
取扱説明書
ワイドテーブル
説明 DVD

●補助テーブル

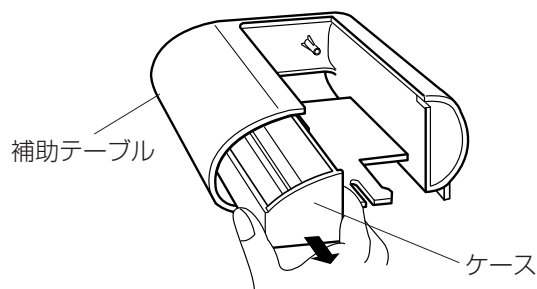
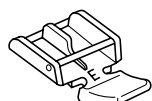
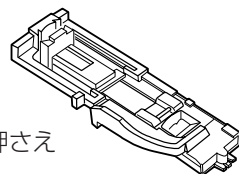
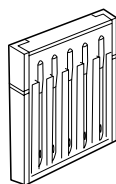
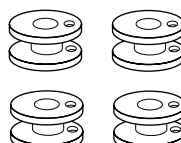
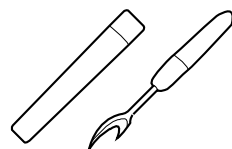
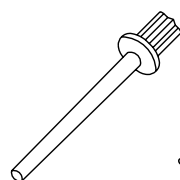
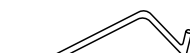
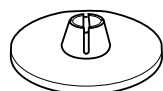
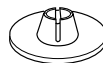
【補助テーブルの外し方】

補助テーブルの下側に手をかけ、横に引いて外します。

※補助テーブルを取り付けるときは、フリーアームにそわせ、ピンを穴に入れ、取り付けます。

【フリーアームの使い方】

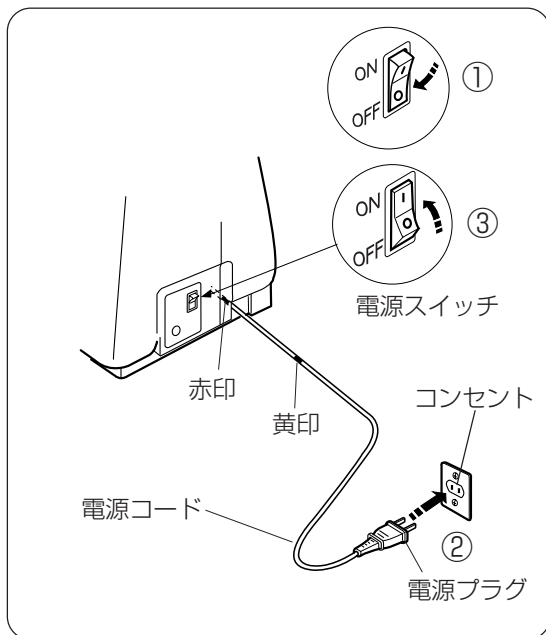
そでぐちやすそなどのぬい、および、ふくろ物のくち端の始末に利用します。

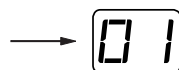
●標準付属品と収納場所

ケースを取り出し、押さえ等の小物を収納します。

※糸こま押さえ（大）はミシンの糸立て棒に付いています。

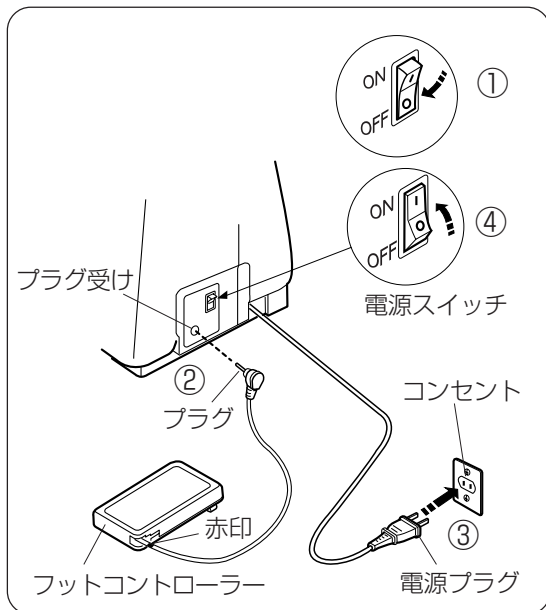
●電源のつなぎ方

⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。
  ミシンを使わないときは､必ず電源スイッチを切り､電源プラグをコンセントから抜いてください。
  感電・火災の原因になります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
  ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり**火災の原因になります。**

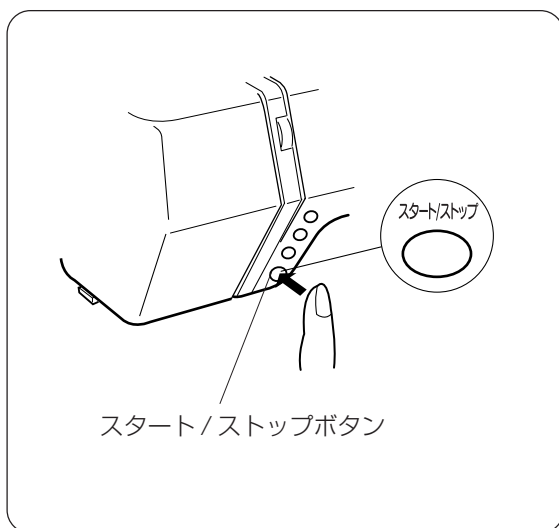
★スタート / ストップボタンを使用する場合

① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
② 電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
③ スイッチを「ON」(入) にします。
※ 電源コードを引き出しすぎると、断線の恐れがありますので、赤印以上は引き出さないでください。黄色の印が出たら30cmぐらいで、赤印になります。

【電源投入時】 1秒間ミシンの設定を行い、直線模様#01を表示します。

初期画面表示が終わったら、ミシンの準備が完了です。

★フットコントローラーを使用する場合

(※フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。)

① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
② フットコントローラーのプラグをプラグ受けに差し込みます。
③ 電源プラグを引き出し、コンセントに差し込みます。
④ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

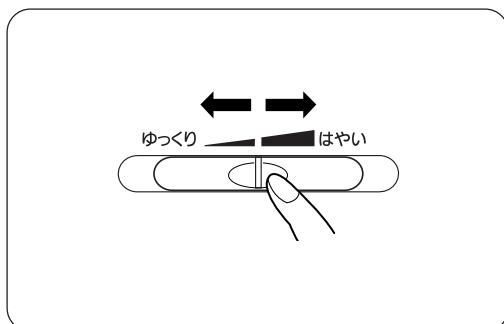
※ フットコントローラーを使用する場合はスタート / ストップボタンは作動しません。
※ フットコントローラーのコードを引き出しすぎると、断線の恐れがありますので、赤印以上は引き出さないでください。

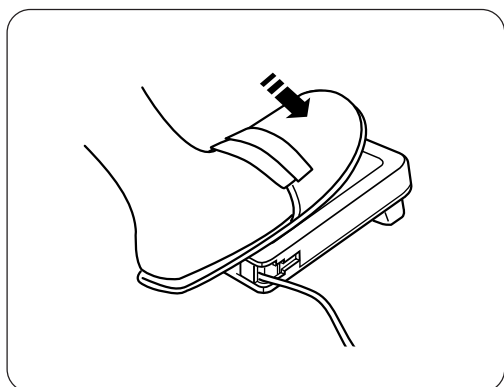
●スタート / ストップボタン

ボタンを押すと、ゆっくり動きはじめてから、スピードコントロールつまみでセットした速さになります。
もう一度押すと、通常、針が上の位置で止まります。

※ スタートおよびストップのとき、ボタンを押し続けている間（手をはなすまで）は、低速で動きます。
※ スタート / ストップボタンを使用するときは、フットコントローラーの接続は、外してください。
※ スタート / ストップボタンを押したとき、dn 表示されたときは、押さえ上げをさげてからスタート / ストップボタンを押してください。

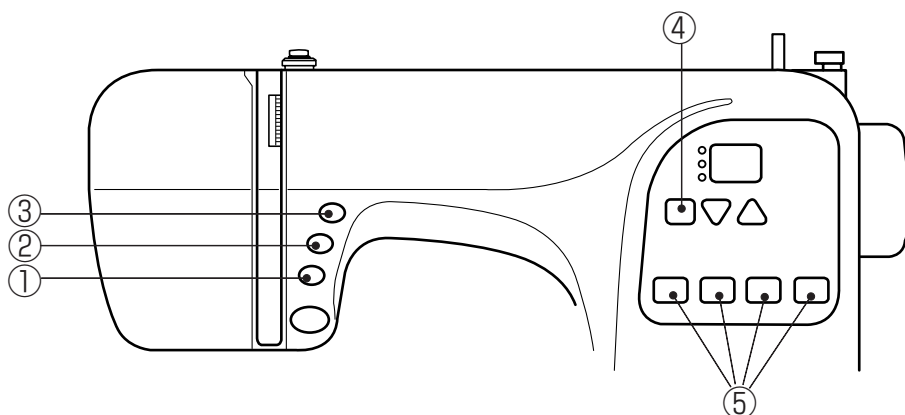
●速さの調節のし方

（ミシンのスピードは、フットコントローラーやスピードコントロールつまみで調節します。）

★スピードコントロールつまみ

ぬう速さは、自由にセットできますので、スピードコントロールつまみをお好みの速さにセットしてください。

★フットコントローラー

フットコントローラーは、深くふみ込むほど速くなります。
フットコントローラーを一杯に踏み込んだときの最高速度は、スピードコントロールつまみのセットした位置で決まります。

※ 通常、スピードコントロールつまみは「はやい」にセットしてお使いください。
※ フットコントローラー使用中は、スタート / ストップボタンは使えません。
※ フットコントローラーの上に物を乗せないでください。

●操作ボタンの主なはたらき

①返しぬいボタン

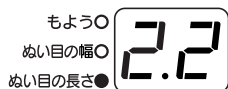
【運転中の返しぬい】
模様 01 02 08 09 は、ボタンを押している間は返しぬいをします。
その他の模様のときには、すぐに止めぬいをして自動的に止まります。
【停止中の返しぬい】
（フットコントローラーを接続していないときのみ）
模様 01 02 08 09 は、ミシンが動いていない状態で返しぬいボタンを押すと、押している間は返しぬいをし、指をはなすと止まります。

②止めぬいボタン

模様 01 02 08 09 は、ボタンを押すと止めぬいをして自動的に止まります。
その他の模様ぬいのときは、模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。
※ ぬう前にボタンを押しておくと、模様を１つぬって自動的に止まります。

③上下停針ボタン

ミシンが止まっているときボタンを押すと、針の位置を上にあるときは下に切りかえ、下にあるときは上に切りかえることができます。
※ 上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンをとめたとき針は上位置で止まり、下位置に切りかえた状態でぬうと針は下位置で止まります。（電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。）

④表示切替ボタン

ボタンを押す毎に、「もよう」、「ぬい目の幅」、「ぬい目の長さ」を選択します。

（1）もよう表示

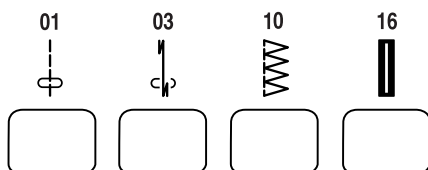
(1)もよう表示 .... 「＋ボタン」「－ボタン」で模様番号を選びます。
ぬい中は選べません。

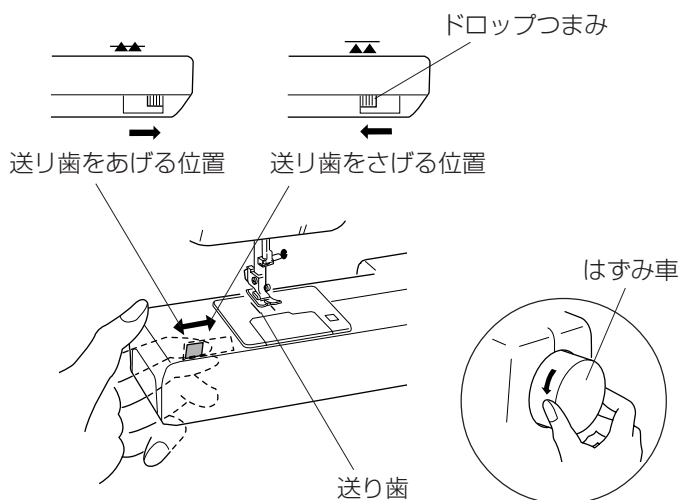
（2）ぬい目の幅表示

(2)ぬい目の幅表示 .. 「＋ボタン」「－ボタン」でぬい目の幅がかえられます。
ぬい中でもかえられます。
※直線状のぬい模様では、針位置がかえられます。20ページをごらんください。

（3）ぬい目の長さ表示

(3)ぬい目の長さ表示 ..「＋ボタン」「－ボタン」 でぬい目の長さがかえられます。
ぬい中でもかえられます。

⑤ダイレクト選択ボタン

ボタンを押すと直接模様が選べます。
表示窓に選んだ模様が表示されます。

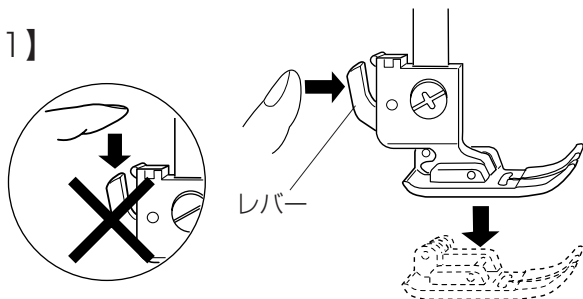
●ドロップつまみの使い方

ボタン付けなどのときは、ドロップつまみを「送り歯をさげる位置」にセットします。

※ 終わったら、「送り歯をあげる位置」にもどし、手ではずみ車を手前にまわして送り歯があがることを確認します。

●押さえの取りかえ方

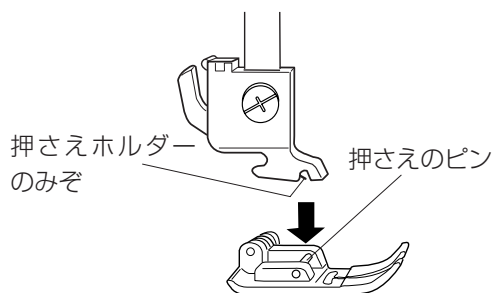
⚠ 注意

電源スイッチを切ってから行ってください。押さえは、模様に合ったものを使用ください。
押さえが合っていないと、針が押さえにあたり、**けがの原因になります。**

【1】

【1】外し方

押さえ上げをあげて、押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押して、押さえを外します。

※ レバーを上から押すと、故障の原因になります。

【2】

押さえホルダーのみぞ

押さえのピン

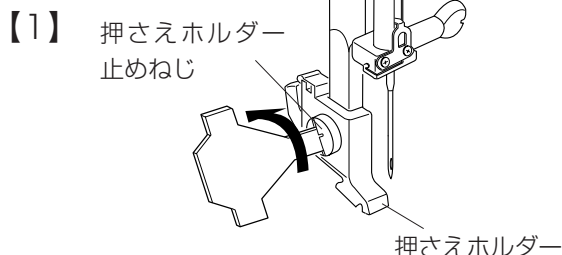
【2】付け方

押さえのピンを押さえホルダーのみぞに合わせて、押さえ上げを静かにおろします。

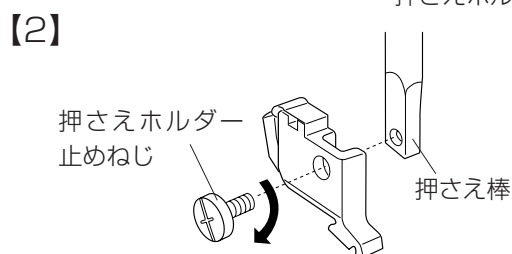
●押さえホルダーの外し方、付け方

⚠ 注意

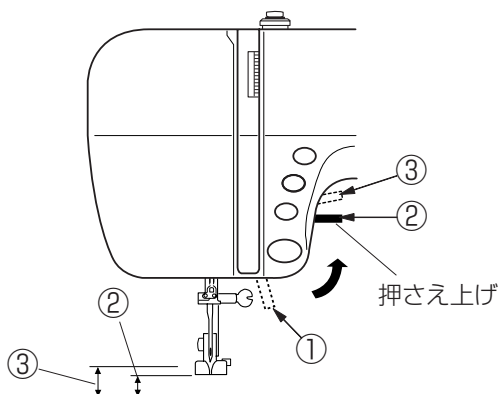
押さえホルダーの取り外し、取り付けをするときは、電源スイッチを切ってから行ってください。
けがの原因になります。

【1】

【1】外し方

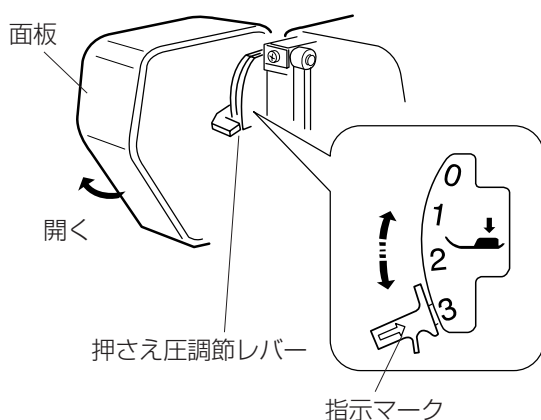
押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。

【2】

【2】付け方

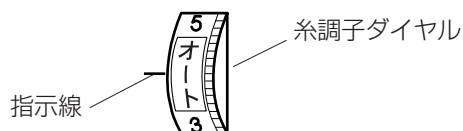
押さえホルダー止めねじを右にまわして、押さえホルダーを押さえ棒に取り付けます。

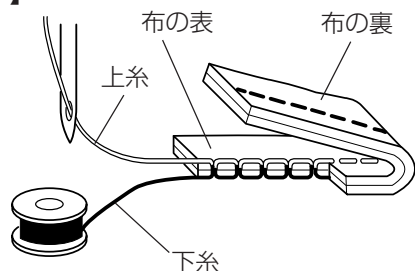
●押さえ上げ

押さえ上げで、押さえのあげさげをします。
押さえ上げを普通にあげた位置よりさらに高くあげると、押えはさらにあがります。
厚い布を入れるときにお使いください。

①さげた位置 .... ぬいのときには、さげておきます
②普通にあげた位置..... 布の取り出しや、糸通し、押 さえの交換のときにあげます
③さらにあげた位置..... 厚い布が入れやすくなります

●押さえ圧調節

面板を開き、押さえ圧調節レバーを動かし指示マークを数字に合わせます。普通ぬいのときは、「3」に指示マークを合わせます。
うす手の布地や伸縮性のある布地でぬいずれがあるとき、またはアップリケなどぬいしろ部分が重なりあうものをぬうときには「2」または「1」に指示マークを合わせます。

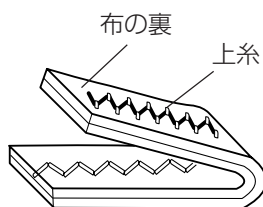
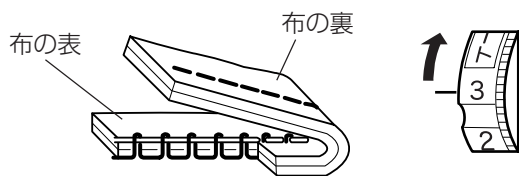
●糸調子の合わせ方

★ 自動糸調子

このミシンは、糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせると、普通のぬいのときにバランスよくぬえる糸調子に自動セットされます。

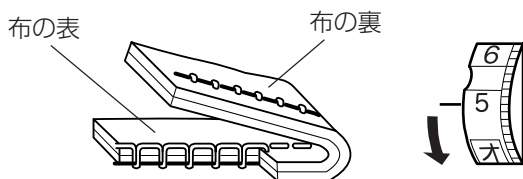
【1】

【1】バランスのとれた糸調子

※ 直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央で交わります。
※ ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

★ マニュアル糸調子

糸や布の種類によって糸調子のバランスがとれないときには、糸調子ダイヤルをまわして調節します。

【2】

【2】上糸が強すぎるとき

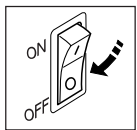
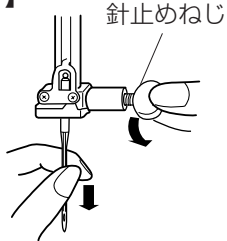
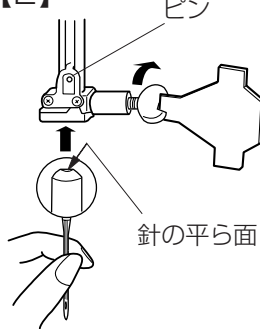
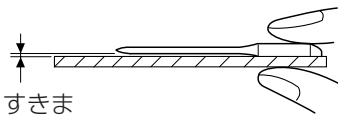
下糸が布の表に出ます。
・・・糸調子ダイヤルをまわして、小さな数値にします。

【3】

【3】上糸が弱すぎるとき

上糸が布の裏に出ます。
・・・糸調子ダイヤルをまわして、大きな数値にします。

●針の取りかえ方

⚠ 注意

針の取りかえは、必ず電源スイッチを切って、電源プラグをコンセントから抜いてください。
けがの原因になります。

※ 針をあげ、押さえ上げをさげます。

【1】外し方

針止めねじを手前に１～２回まわしてゆるめ、針を外します。

【2】付け方

針の平らな面を向こう側に向けて、ピンにあたるまで差し込み、針止めねじをかたくしめます。

※ 正しく針が付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。

【3】針の調べ方

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

●布に適した糸や針を選ぶ目安

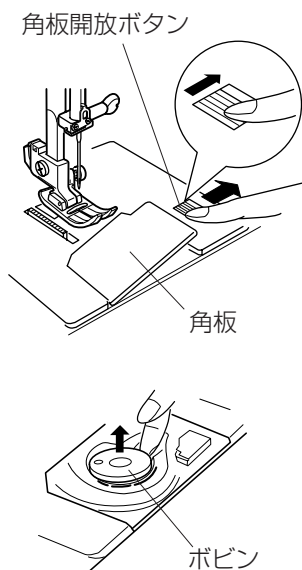
布		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル　90番	９番～11番
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	絹　糸　50番 綿　糸　60番 ポリエステル、ナイロン 50～90番	11番～14番
		綿　糸　50番	14番
厚い布	デニム ツィード コート地	絹　糸　50番 綿　糸　40番～50番 ポリエステル　40番～50番	14番～16番
		ポリエステル　30番 綿　糸　30番	16番

※ 一般に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。この表を目安に、針と糸を選び、試しぬいをして確かめてください。

※ 原則として、上糸と下糸は、同じものを使用してください。

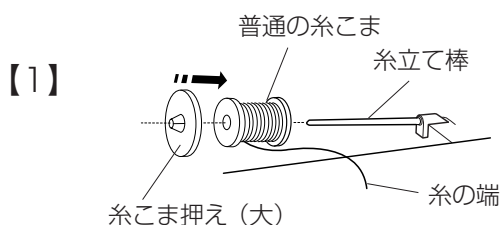
※ 伸縮性のある布（ジャージー、トリコット）や目とびしやすい布地などには、ストレッチ針を使用すると防止効果があります。（市販ＳＰ針も同様の効果があります。）

●下糸の準備をしましょう

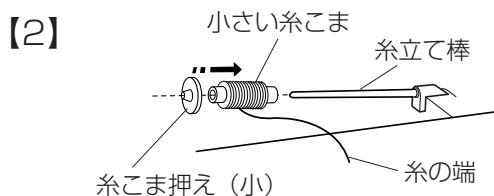
★ボビンを取り出します

角板開放ボタンを右へずらして角板を外し、ボビンを取り出します。

※ ボビンは、必ず専用ボビンをご使用ください。他の製品を使うと、ぬい不良、または故障の原因になります。

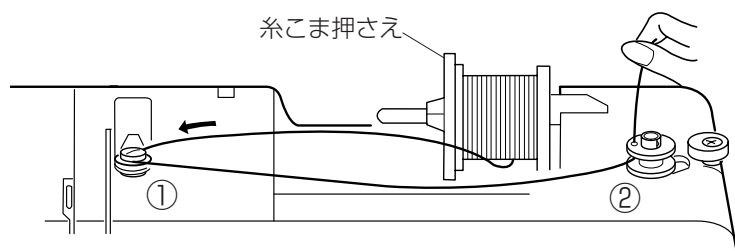
★糸こまをセットします

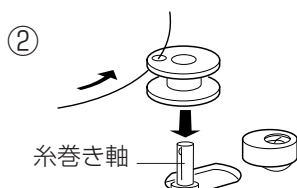
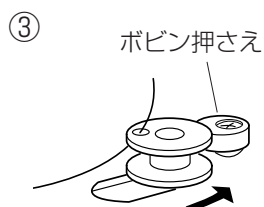
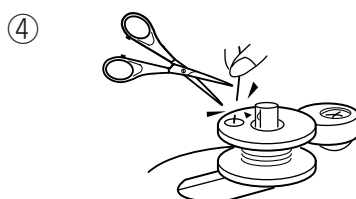
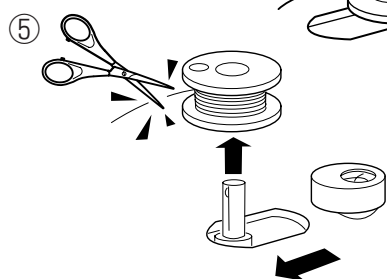
【1】

【1】 普通の糸こまのとき

糸の端が糸こまの下から手前に出るようにして糸こまを糸立て棒に入れ、糸こま押さえ（大）で糸こまを押さえます。

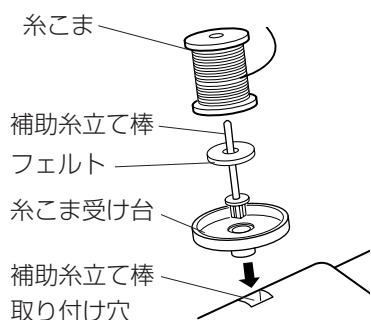
【2】

【2】 小さい糸こまのとき

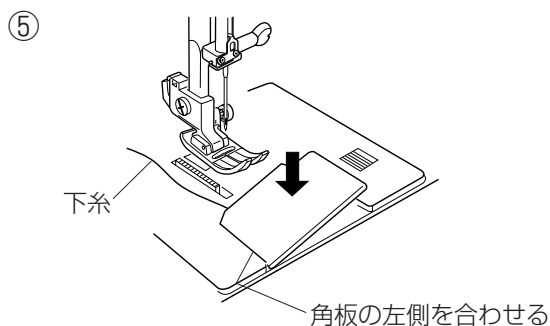
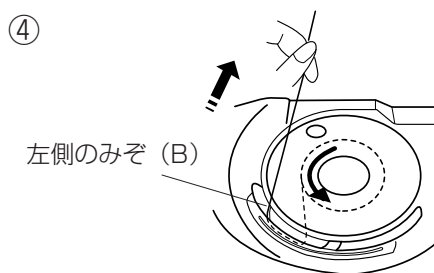
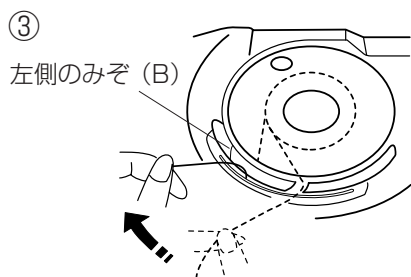
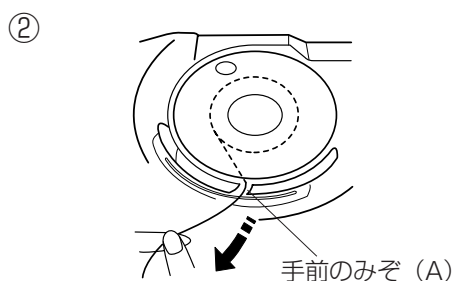
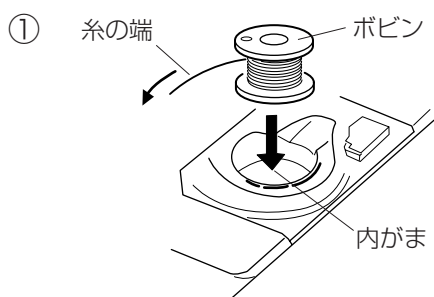
※ 小さい糸こまのときには、糸こま押え（小）を使ってください。

★ボビンに糸を巻きます

※ 糸巻き時は、スピードコントロールつまみを（はやい）にセットしてご使用ください。

① 糸巻き糸案内に糸をかけます。

② ボビンの穴に糸を通し、糸巻き軸に差し込みます。

③ ボビンを、ボビン押さえの方に押しつけます。表示窓に SP と表示され、糸巻き位置にセットされたことを表示します。

④ 糸の端をつまんだままスタートして、ボビンに糸が三重くらい巻きついたらミシンを止めて、糸を切ります。

⑤ ふたたびスタートして、巻き終わるとボビンの回転が止まります。
ミシンを止めます。糸巻き軸を戻し、糸巻き軸からボビンを外し、糸を切ります。

【補助糸立て棒の利用】

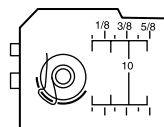
糸こま
補助糸立て棒
フェルト
糸こま受け台
補助糸立て棒取り付け穴

※ 糸巻き軸は、必ずミシンを止めてから移動してください。
※ 糸巻きは、安全のためにミシンがスタートしてから約２分間で自動停止します。
※ 補助糸立て棒での利用もできます。
補助糸立て棒を使うときは、補助糸立て棒取り付け穴にセットします。糸の端は糸こまの右側からうしろに出るようにします。

★ボビンを内がまにセットします

> ⚠ **注意**
>
> ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。
>
> **けがの原因になります。**

①

① 糸の端を矢印方向に出し、ボビンを内がまに入れます。

※角板にボビンから引き出される糸の図を表示しています。

②

② 糸の端を引きながら、手前のみぞ（A）にかけます。

③

③ 糸を引きながら左へ移動させ、左側のみぞ（B）のところに出します。

④

④ 糸を左側のみぞ（B）にかけるように向こう側に出します。

※ 糸を引き出したとき、ボビンは反時計方向に回転します。
時計方向に回転した場合、ボビンの向きを上下逆に入れかえます。

⑤

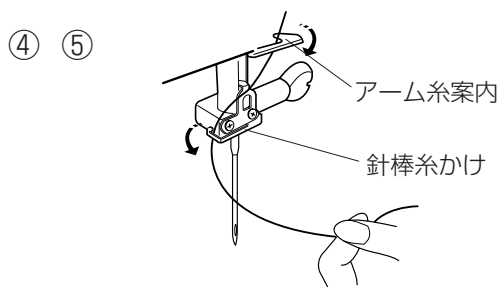
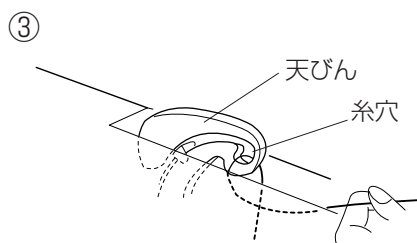
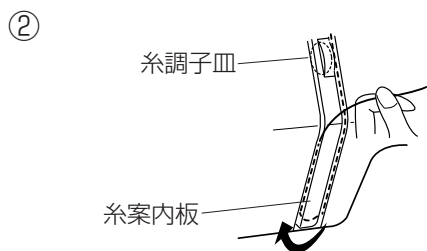
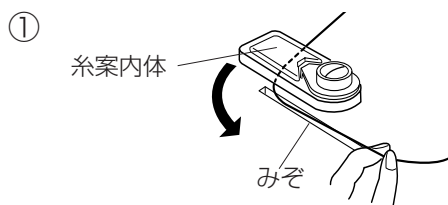
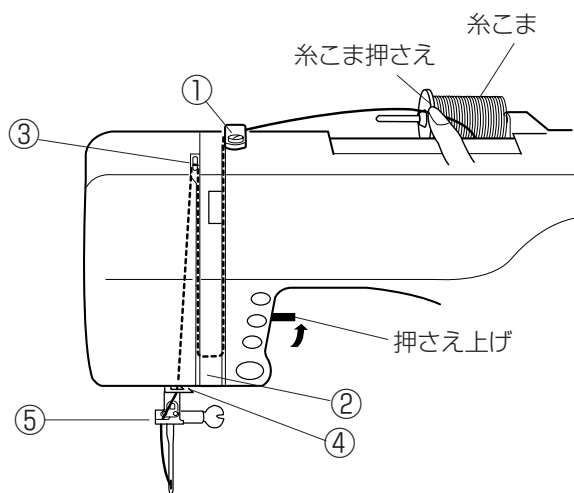
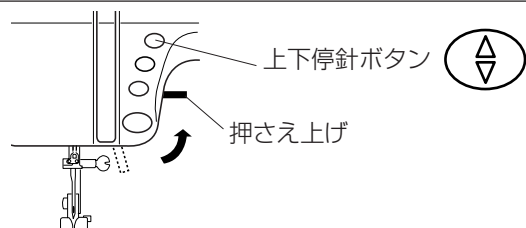
⑤ 下糸は 10cmくらい引き出して、角板を左側から合わせて付けます。

●上糸の準備をしましょう

★上糸のかけ方

①

②

③

【準備】

1 押さえ上げをあげます。
2 電源を入れ「上下停針ボタン」を押して、針を上にあげます。
3 電源を切ります。

⚠ 注意

準備が終わったら、必ず電源スイッチを切ってください。**けがの原因になります。**

※ 糸こま外れ防止のため、必ず、糸こま押さえを使用してください。

① 糸こまから糸を引き出し、糸こま側の糸を軽く押えながら糸案内体の下に巻きつけるようにしてかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸こまから出ている糸を押さえて、糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。

※ 押さえ上げがあがっていないと、糸調子皿に上糸が通らないので、ぬい不良になります。

③ 糸を天びんに右からうしろへまわして手前に出し、まっすぐ下におろします。

※ 糸が天びんの糸穴まで入っていることを確認します。

④ ⑤

④ アーム糸案内に右からかけます。

⑤ 針棒糸かけに左からかけます。

※ 針には糸通しを使って糸を通します。
糸通しの使い方は、16 ページをごらんください。

★糸通しの使い方

①

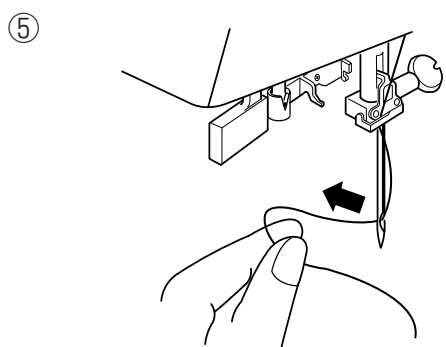
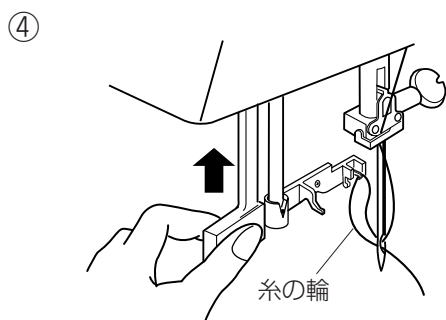
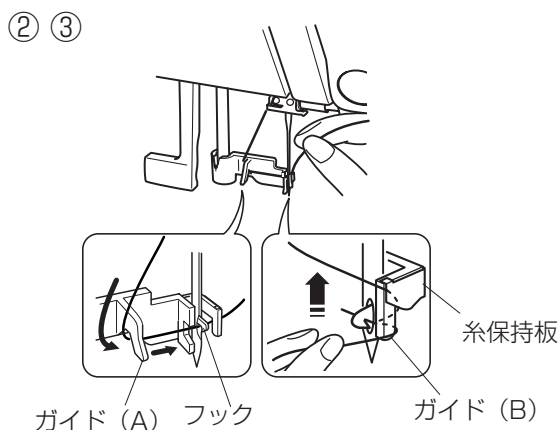
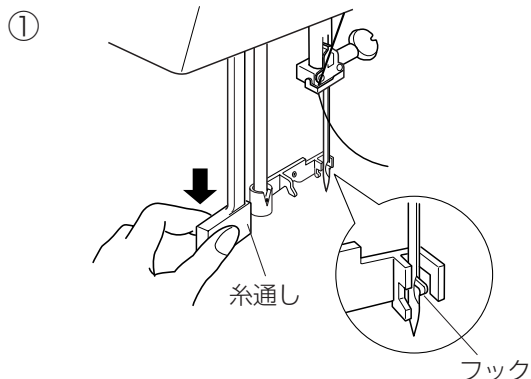
② ③

④

⑤

⚠ 注意

糸通しをするときには、必ず電源スイッチを切ってから行なってください。
けがの原因になります。

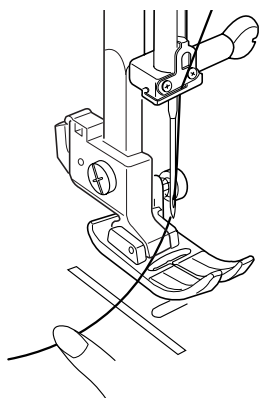
※ 針は、11 番〜 16 番、ストレッチ針
　糸は、50 番〜 90 番が使えます。

① 押さえ上げをさげ、針をあげます。
　糸通しを止まるまで引きさげます。
　糸通しが止まった位置で、フックが針穴に入ります。

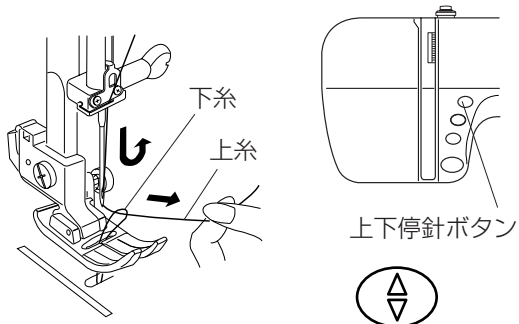
② 糸を左側からガイド（A）とガイド（B）にかけます。
※ 糸がフックの下を通っていることを確認します。

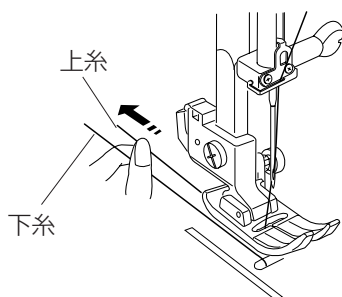
③ ガイド（B）の右から手前にまわして、そのままガイド（B）の側面にそって上に引きあげ、糸保持板にはさみ込みます。

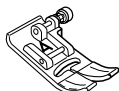
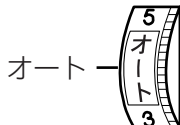
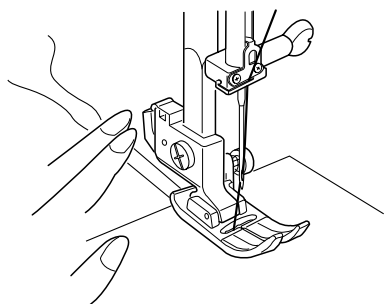
④ 糸通しを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

⑤ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に出しながら、針穴から糸の端を引き出します。

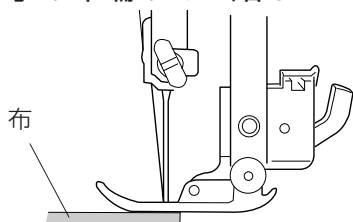
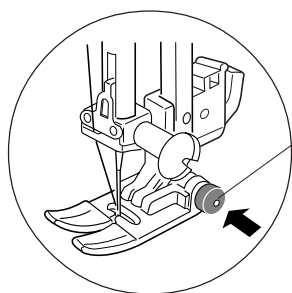
★下糸を引きあげます

① 押さえ上げをあげ、糸の端を指で押さえておきます。

②

② 「上下停針ボタン」を2度押し、針をあげます。上糸を軽く引くと、下糸の輪が引き出されます。

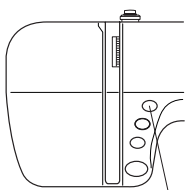
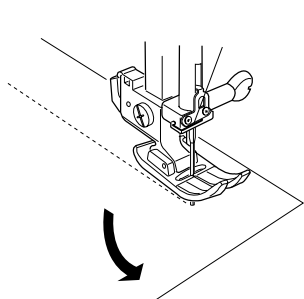
③

③ 上糸と下糸を押さえの下にして、約10cmほどうしろにそろえて引き出します。

●直線ぬい

★ぬい始め

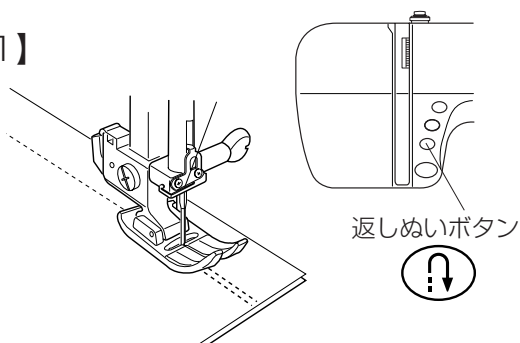
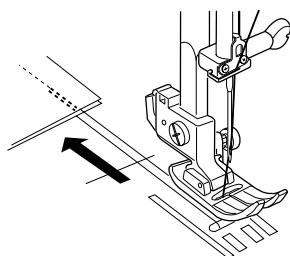
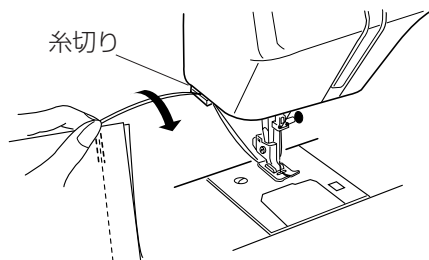
糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手前にまわして、ぬい始めの位置に針をさします。
押さえ上げをさげて、ぬい始めます。
※ ぬい始めのほつれ止めは、「返しぬいボタン」を押しながら返しぬいをする方法と、自動返しぬいのついた模様 03 と自動止めぬい模様 04 を使う方法があります。（21 ページをごらんください。）

★厚手の布端のぬい始め

① ぬい始めの位置に針をさし、基本押さえの黒ボタンを押し込みます。

② ボタンを押したままで押さえ上げをさげます。黒ボタンから手をはなし、ぬい始めます。押さえが完全に布の上にのると、黒ボタンの押し込みは、自動的に解除されます。

★ぬい方向の変更

ミシンを止め、「上下停針ボタン」を押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。
針を布にさしたまま、ぬい方向をかえます。

★ぬい終わり

【1】

【1】返しぬい

「返しぬいボタン」を押しながら数針返しぬいをします。

※ ぬい終わりのほつれ止めは「返しぬいボタン」を押しながら返しぬいする方法と、自動返しぬい模様 03 と自動止めぬい模様 04 を使う方法があります。（21 ページをごらんください。）

【2】

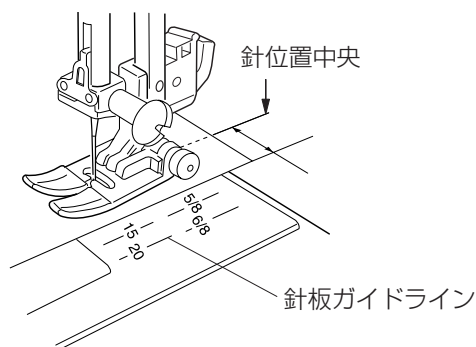
【2】布の引き出し方

押さえ上げをあげて、布を向こう側に静かに引き出します。

【3】

【3】糸切り

布を手前に返すようにして、糸切りで糸を切ります。

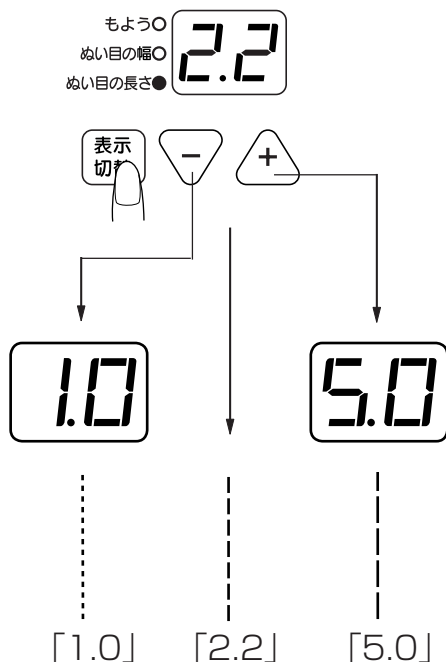
●針板ガイドラインの利用

針位置中央

針板ガイドライン

布端を針板ガイドラインに合わせてぬうと、布端から正確な位置にぬうことができます。

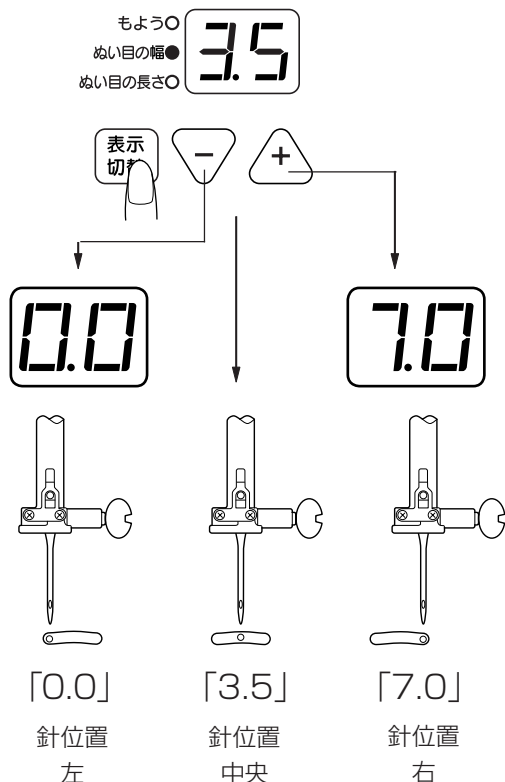
数字	15	20	4/8	5/8	6/8
距離 （cm）	1.5	2.0	1.3	1.6	1.9

※ ガイドライン数字は、針位置中央からガイドラインまでの距離を「ミリメートル」または「インチ」で示しています。

●ぬい目の長さをかえるとき

「表示切替ボタン」を押して、「ぬい目の長さ」を選択します。
自動セットの数値 2.2 が表示されます。
※ 0.0 ～ 5.0 の範囲でかえることができます。
　長さの単位は、mm です。

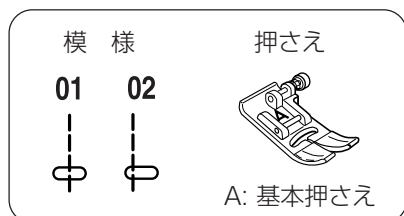
「－ボタン」を押すと、表示される数値が小さくなり、ぬい目が短くなります。
「＋ボタン」を押すと、表示される数値が大きくなり、ぬい目が長くなります。

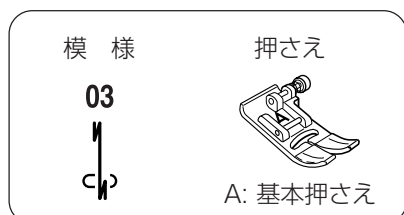
※ 返しぬいのぬい目の長さは、2.5mm 以上にはなりません。

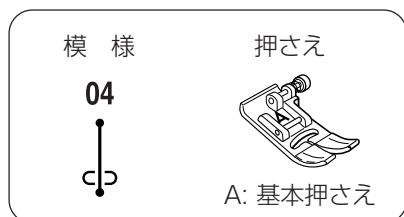
●針位置をかえるとき

※ 直線状のぬい目、模様 01 02 03 04 05 07 は、
　針位置をかえることができます。

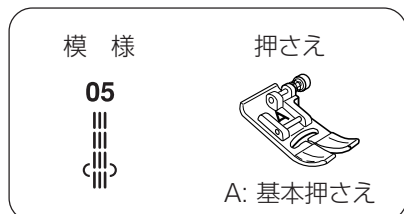
「表示切替ボタン」を押して、「ぬい目の幅」を選択します。
自動セットの数値 3.5 が表示されます。
「＋ボタン」、「－ボタン」で針位置をかえます。

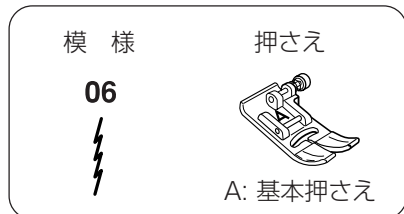
●直線状のぬい目

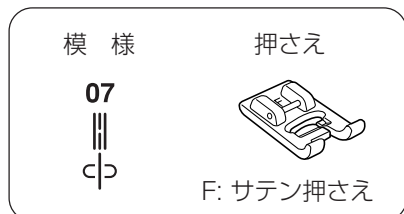
地ぬい

地ぬいや、ファスナー付けなどに使います。
※模様 02 は、端ぬいに使用します。

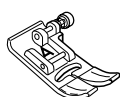
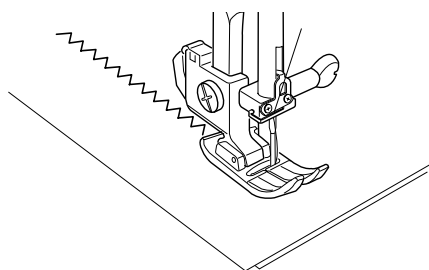
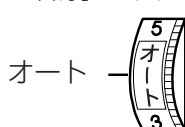
自動返しぬい

しっかりしたほつれ止めを自動的に行うときに使います。
ミシンをスタートすると､ぬい始めに自動的に返しぬいをしたあと、直線ぬいをします。
ぬい終わりにきたら、「返しぬいボタン」を一度押します。
数針返しぬいをしてから自動的に止まります。

自動止めぬい

目立たない止めぬいを自動的に行うときに使います。
ミシンをスタートすると､ぬい始めに自動的に止めぬいをしたあと、直線ぬいをします。
ぬい終わりにきたら、「返しぬいボタン」を一度押します。
止めぬいをして自動的に止まります。

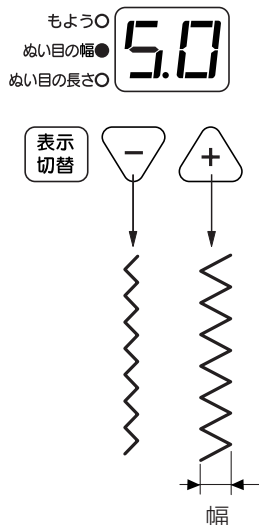
三重ぬい

伸縮性のある強いぬい目なので、補強ぬいに便利です。

伸縮ぬい

布が伸びても、糸が切れにくい、伸縮性のあるぬい目です。
また、直線状なのでぬいしろを割ることができ、ニット、トリコットなどのぬい合わせに便利です。

飾りぬい

飾りぬいや、キルティングなどに使用します。

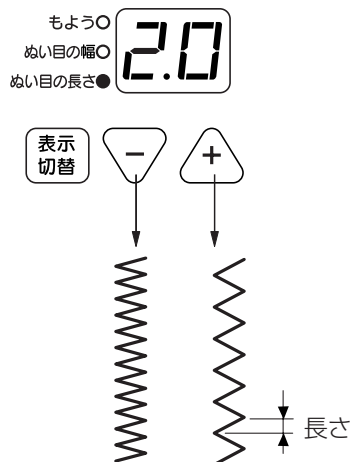
●ジグザグぬい

伸縮性のある布（ニット、ジャージー、トリコットなど）には接着芯を貼るときれいにぬえます。

★ぬい目の幅・長さをかえるとき

【1】

【1】幅をかえるとき

「表示切替ボタン」を押して、「ぬい目の幅」を選択します。
（自動セットの数値が表示されます。）

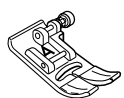
「＋ボタン」を押すと、幅が広くなります。
「－ボタン」を押すと、幅がせまくなります。

【2】

【2】長さをかえるとき

「表示切替ボタン」を押して、「ぬい目の長さ」を選択します。
（自動セットの数値が表示されます。）

「＋ボタン」を押すと、ぬい目が長くなります。
「－ボタン」を押すと、ぬい目が短くなります。

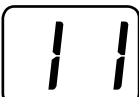
●たち目かがり

ジグザグぬいたち目かがり

布端をたち目かがり押さえのガイドに当ててぬいます。
布端のほつれ止めとして広く利用します。

※ たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は、5.0 ～ 7.0 でぬいます。

トリコットぬいたち目かがり

ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに利用します。
ぬいしろを少し余分にとってぬい、余分なところをぬい目の近くで切り落とします。

かがりぬい（1）

地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに使用します。
布端をガイドにあててぬいます。

※ ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

かがりぬい（2）

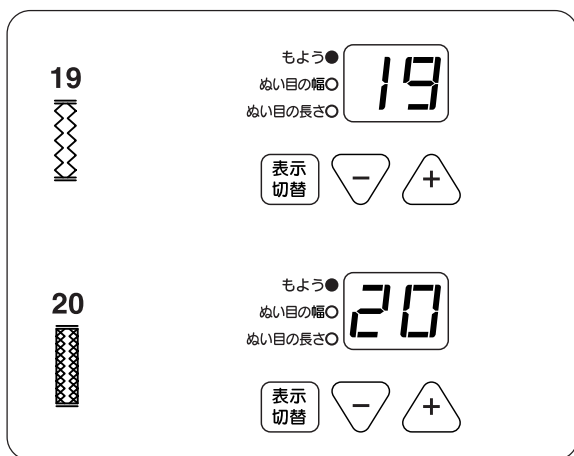
オーバーロックのぬい目に似ていて、布端がほつれやすい布地のほつれ止めに使用します。

※ 押さえ外側のピン横で、上糸と下糸がからみあうよう糸調子ダイヤルで調節します。
※ ぬい目の幅はかえられません。

かがりぬい（3）

中、厚地のしっかりした布端をかがるときに使用します。
布端をガイドにあててぬいます。

※ ぬい目の幅は、5.0～7.0でぬいます。

●ボタンホール

★ボタンホールの種類

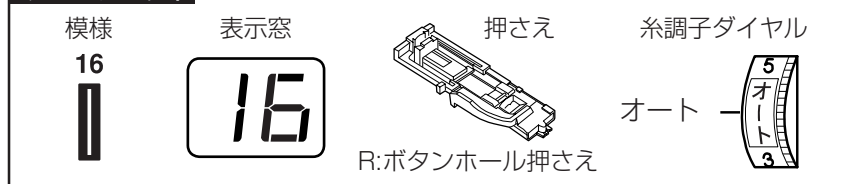
◎スクエア（両止め）
中厚物から厚物まで一般的な使用目的のボタンホールです。

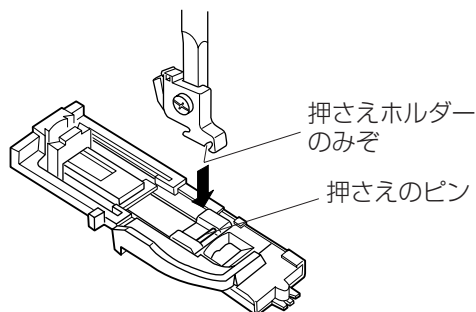
◎ラウンド
中厚物から薄物の素材に使います。ブラウス、子供服などでよく使われます。

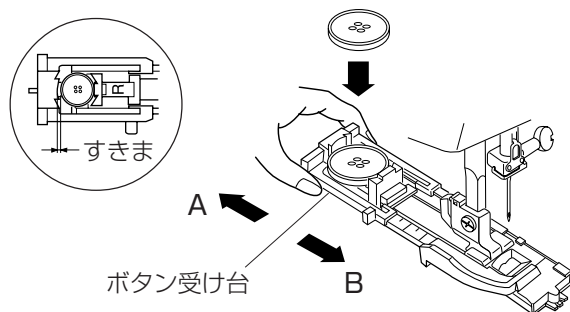
◎キーホール（鳩目穴）
中厚物から厚物の素材に使います。ジャケットなどで使われます。

◎ ニット用
ニットなど伸縮性のある布に適したボタンホールです。
また、飾りぬいボタンホールとしても使えます。

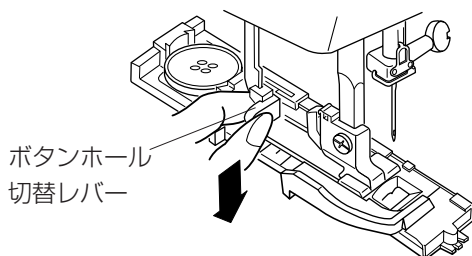
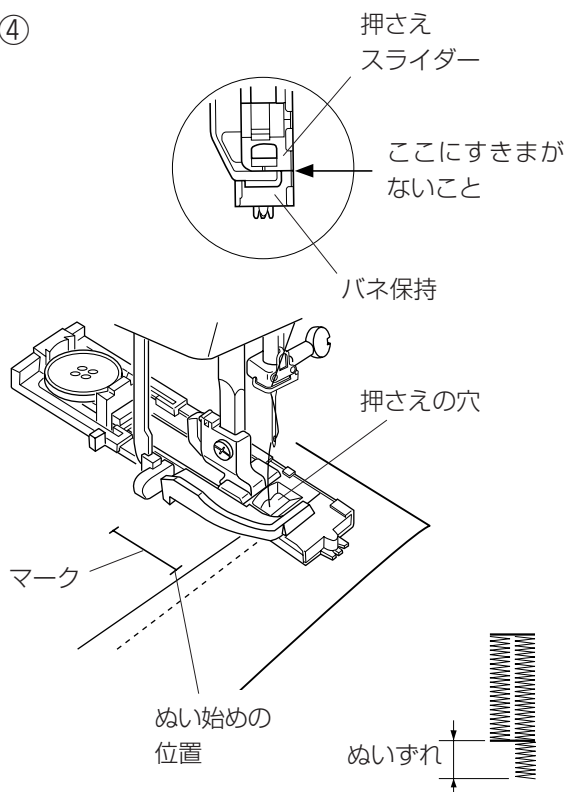
◎薄地用
手ぬい風のボタンホールで、飾りぬいボタンホールとして使用されます。

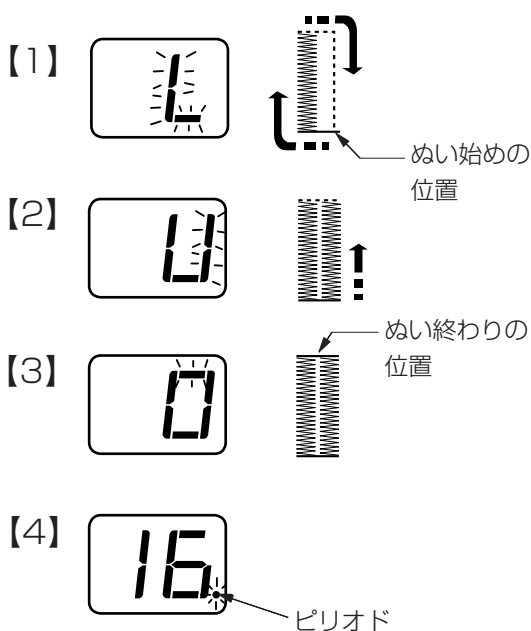
★ボタンホール＃16（スクエア）のぬい

※ ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみこむと自動的に決まります。
※ ボタンの直径が 1.0 ～ 2.5cm までボタンホールができます。
※ ぬうものと同じ布で試しぬいをして、ミシンのセットを確かめましょう。
※ 伸縮性のある布には、裏に伸びにくい芯地を貼ってください。

①

① 押さえホルダーのみぞと、押さえのピンを合わせ押さえ上げをさげてボタンホール押さえをセットします。

②

② ボタン受け台をＡ方向に引き、ボタンをのせてＢ方向に戻しはさみます。

※ ボタン受け台とボタンの間にすきまをあけると、その分大きなボタンホールができます。

③

③ ボタンホール切替レバーを止まるまでいっぱいに引きさげます。

④ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。
布を入れ、手ではずみ車を手前にまわし、ぬい始めの位置に針をさして押さえ上げをさげます。

※ ぬい始めに、押えスライダーとバネ保持の間にすきまがないことを確認してください。
すきまがあると、ぬい終わったとき、ぬいずれがおこることがあります。

⑤ ミシンをスタートしてぬいます。

[ぬっていく順序]

【1】第1、2ステップ ..... かんぬきと左側のボタンホールをぬいます

※ 表示窓にはぬっているステップが表示され点滅します。

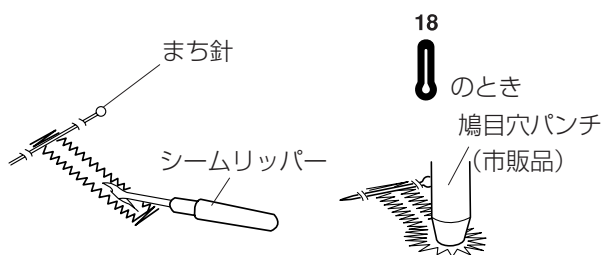
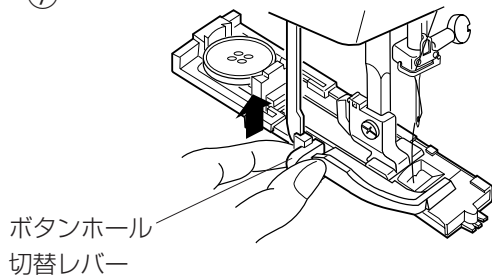
【2】第3ステップ ...... 右側のボタンホールをぬいます

【3】第4ステップ ...... かんぬきと止めぬいをして自動的に止まります

【4】ぬい終了 .... ピリオドが点滅します

※ ぬい終わると、ピリオドが点滅します。くり返し同じ長さのボタンホール（重ねぬい）ができます。
重ねぬいは 29 ページをごらんください。
他の模様を選ぶときや、ボタンホールの長さをかえたいときには、押さえ上げをあげてからかえてください。

【1】ぬい中にこんな表示が出た場合

ボタンホール切替レバーをさげないで、ボタンホールを0.5cmぬったときに表示します。
ボタンホール切替レバーをさげて、再スタートします。

⑥ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーでかがった糸を切らないように切りひらきます。

⑦ ぬい終わったらボタンホール切替レバーを止まるまでいっぱいに押しあげて戻します。

【2】ぬい終わったあと、模様を選ぼうとして、こんな表示が出た場合

ボタンホールのあとに押さえ上げ、または、ボタンホール切替レバーをさげたまま、他の模様を選んだ時に一度表示されます。
押さえ上げ、または、ボタンホール切替レバーをあげてから他の模様を選んでください。

★ぬい目の幅・ぬい目の長さをかえるとき

【1】幅をかえるとき

「表示切替ボタン」で「ぬい目の幅」を選択します。

「+ボタン」、「−ボタン」を押すと、ボタンホールの幅がかえられます。

※ 2.5～7.0の範囲で0.5ずつかえることができます。

【2】長さをかえるとき

「表示切替ボタン」で「ぬい目の長さ」を選択します。

自動セットされている数値0.4が表示されます。

ぬい目の長さをかえるには、「+ボタン」または、「−ボタン」を押してください。

※ マニュアル値を表示した場合は、ぬい中でもマニュアル表示され、ぬいが終了すると 16. 表示になります。

★ボタンホール重ねぬい

ボリューム感のあるボタンホールができます。

【1】一度目のぬい終了

ボタンホールをぬい終わったら押さえ上げをさげたまま、ミシンをスタートさせます。

自動的に重ねぬいをします。

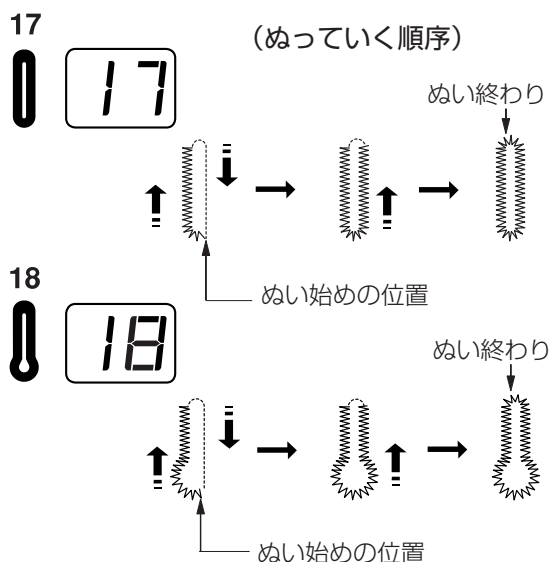
※ ピリオドの点滅は、重ねぬいできる状態を示します。

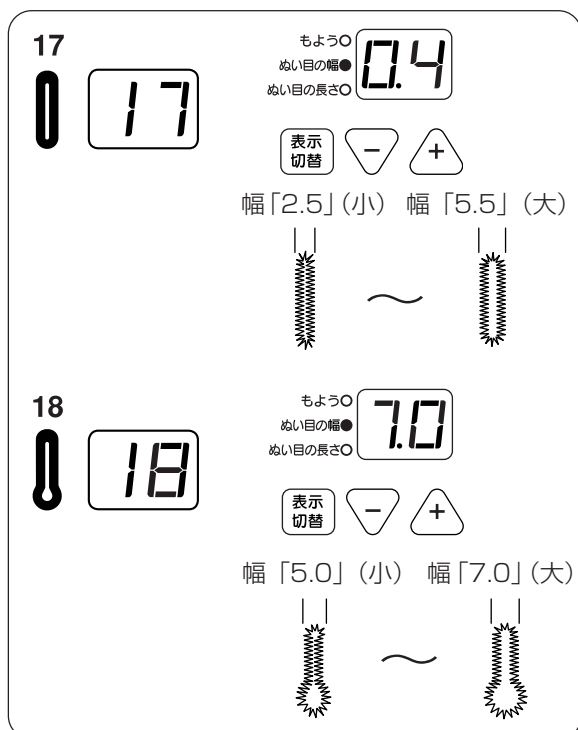
(ぬっていく順序)

【2】ぬい始め位置まで下ぬいをします。

【3】自動的に第1～第4ステップをぬって、自動的に止まります。

※ ボタンホールの重ねぬいをする場合には、1回目のぬいを確実に終了させた後、再スタートしてください。

★ボタンホール# 17（ラウンド）, # 18（キーホール）のぬい

※ ぬっていく順序、ぬい方はボタンホール# 16（スクエア）と同じです。
（26 ～ 28 ページをごらんください。）

★ぬい目の幅をかえるとき

【ボタンホール# 17】

「表示切替ボタン」で「ぬい目の幅」を選択します。「＋ボタン」、「－ボタン」を押すと、ボタンホールの幅がかえられます。

※ 2.5 ～ 5.5 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。

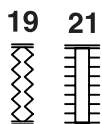
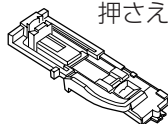
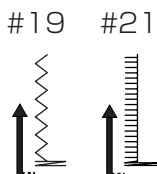
※ ぬい目の長さ調節は、29ページをごらんください。

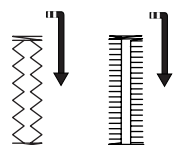
【ボタンホール# 18】

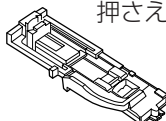
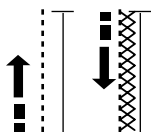
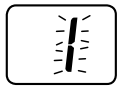
「表示切替ボタン」で「ぬい目の幅」を選択します。「＋ボタン」、「－ボタン」を押すと、ボタンホールの幅がかえられます。

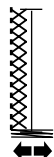
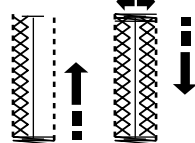
※ 5.0 ～ 7.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。

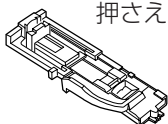
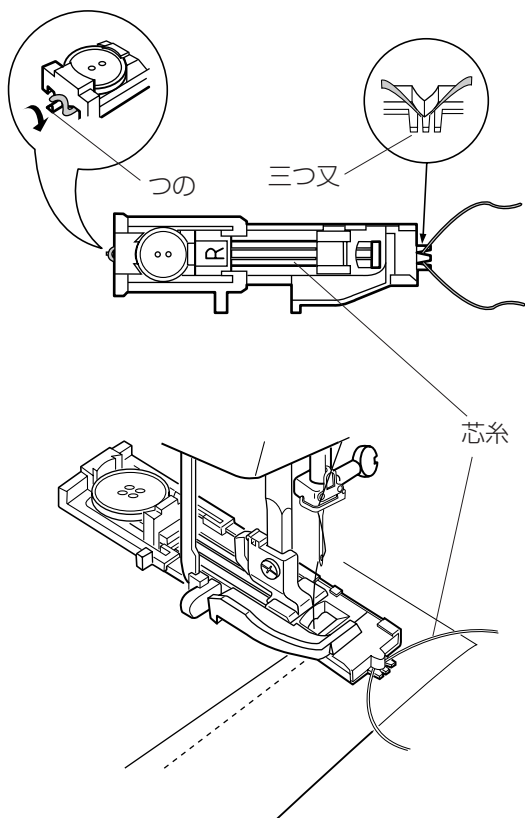
※ ぬい目の長さ調整は、29ページをごらんください。

★ボタンホール #19（ニット）,#21（薄地用）のぬい

[ぬっていく順序]

【1】第1ステップ ......かんぬきと左側のボタンホールをぬいます。

【2】第2ステップ ......かんぬきと右側のボタンホールをぬい、止めぬいをして自動的に止まります。

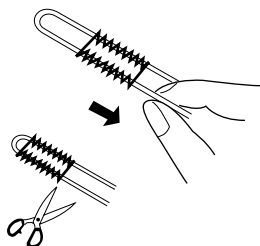
★ボタンホール #20（ニット）のぬい

[ぬっていく順序]

【1】第1ステップ ......左側のボタンホールをぬいます。

【2】第2ステップ ......かんぬきをぬいます。

【3】第3ステップ ......かんぬきと右側のボタンホールをぬい、止めぬいをして自動的に止まります。

●芯入りボタンホール

① ②

① 芯糸の輪を押えのうしろ側にあるつのにかけ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の三つ又にはさみます。

② ボタンホール（スクエア）の手順と同じようにぬいます。

※ 26～28ページをごらんください。

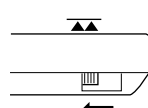
③

③ 左側の芯糸を引いて、たるみをなくし余分な糸を切ります。

※ 穴のあけ方は、28ページをごらんください。

●ボタン付け

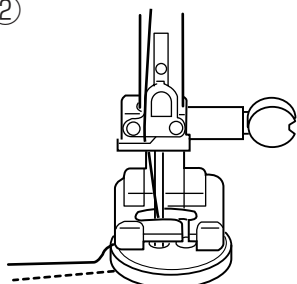
ミシンのセット

模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル	ドロップつまみ
08	08	F:サテン押さえ	オート	

【準備】

（1）送り歯をさげます。

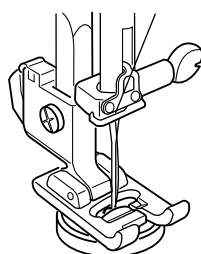
（2）ぬい目の幅をボタン穴の間かくに合わせて、調節します。

【ぬい】

① ②

① はずみ車を手前にまわして針が左にきたときボタンの左の穴におりるようにします。

② ボタンの左右の穴が真横にくるようにして押さえ上げをさげます。

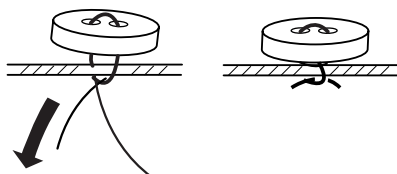
※ ボタンが押さえで固定されていることを確認します。不安定だとボタンがずれて針折れする危険があります。

③ ④ ⑤

③ はずみ車を手前にまわして針が左右の穴におりることを確かめます。

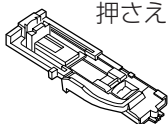
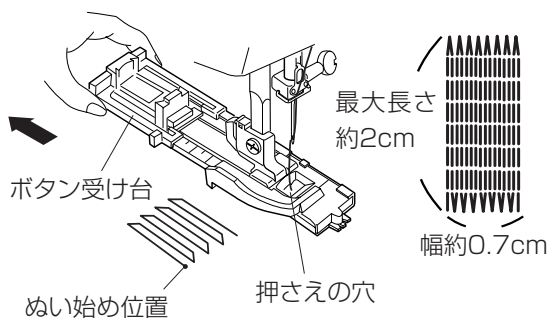
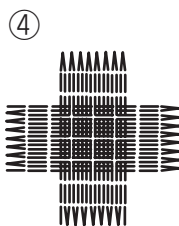
④ スピードコントロールつまみを（ゆっくり）にセットします。

⑤ 10針くらいぬったらミシンを止めます。

※ ぬい始めの上糸と下糸は、はさみで切り取ってください。

⑥

⑥ 押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を20cmくらい残して切ります。ぬい終わりの下糸を引いて上糸を布の裏に引き出し、上糸と下糸を結びます。

※ ぬい終わったらドロップつまみを送り歯をあげる位置にもどし、手ではずみ車を手前にまわして、送り歯があがることを確認します。

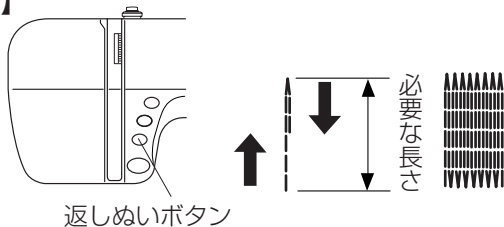
●ダーニング（つくろいぬい）

① ボタン受け台を一杯に引き出します。

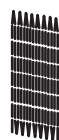
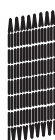
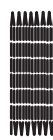
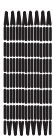
② 上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出して下糸とそろえます。

③ ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげ自動的に止まるまでぬいます。

※ 1回のぬいで、最大長さ約2cm、幅約0.7cmまでぬえます。

※ ぬい終わると、ピリオドが点滅します。
くり返し同じ長さのダーニングができます。
他の模様を選ぶときや、ダーニングの長さをかえたいときには、「−ボタン」または「＋ボタン」を押して、ピリオドの点滅を消します。

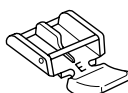
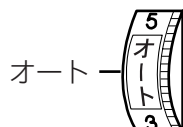
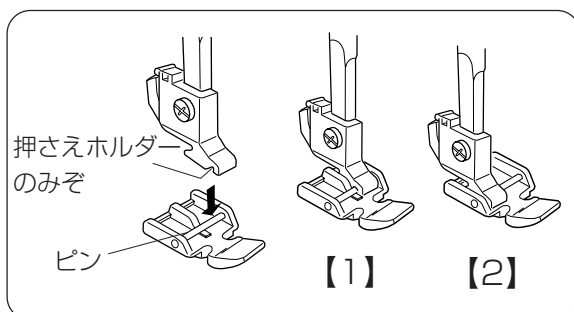
④ 布の向きをかえてくり返しぬいます。

【1】2cmより短い長さでぬう場合

最初に必要な長さまでぬい、「返しぬいボタン」を押して、自動的に止まるまでぬいます。

【2】ダーニングの形の整え方

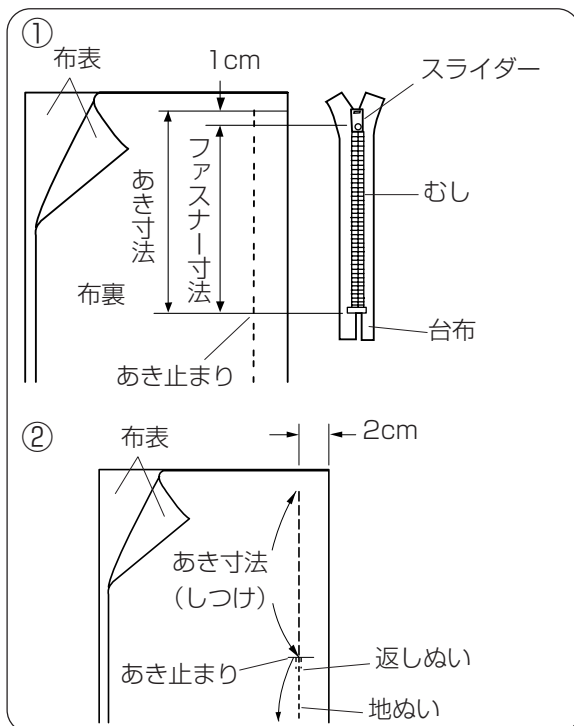
ダーニングのぬい始め（左側）と、ぬい終わり（右側）の高さがそろわないときは、「表示切替ボタン」でぬい目の長さを選び「−ボタン」または「＋ボタン」で調節します。

（A）右側が低いとき .... d1〜d4で左右の高さがそろいます。

（B）左側が低いとき .... d6〜d9で左右の高さがそろいます。

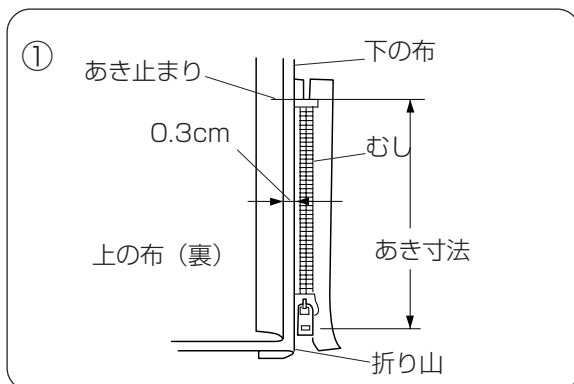
●ファスナー付け

【ファスナー押さえの付け方】

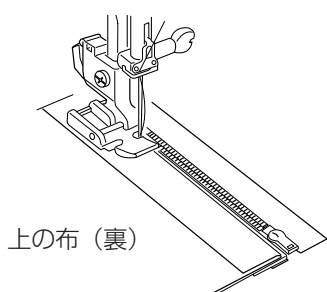
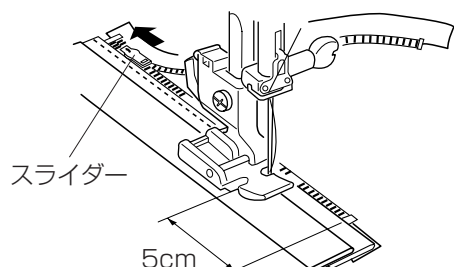
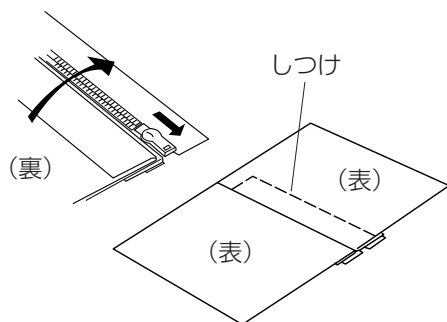
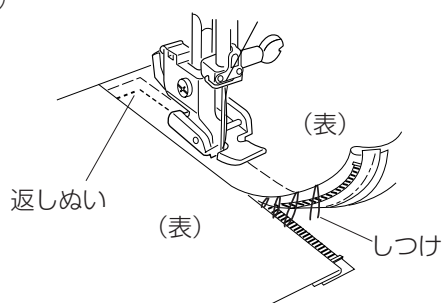
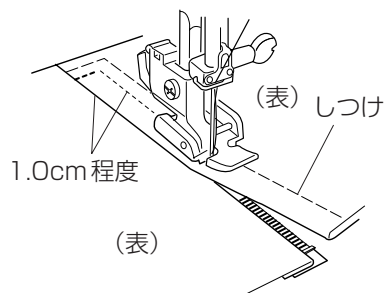
左側をぬうときは、押さえホルダーのみぞにピンを合わせて右側にセットします。
右側をぬうときは、左側にセットします。

【1】左側をぬうとき
【2】右側をぬうとき

【準備】

① ファスナーのあき寸法を確かめます。
あき寸法はファスナー寸法に 1cm プラスした寸法です。

② しつけと地ぬいをします。
布を中表に合わせて、あき止まりまで地ぬいをします。
地ぬいの部分は、A:基本押さえを使ってぬいます。
あき部分は、ぬい目の長さを「5.0」でぬいます。

※ しつけは、ほどきやすいように糸調子ダイヤルを「1」くらいにしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」にもどします。

【ぬい】

① ぬいしろを割り、下の布のぬいしろを0.3cm出して、アイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわにあてます。

② 押さえホルダーを押えの右側にセットして、むしのきわに押さえの端をあてて、あき止まりからぬいます。

※ ぬい始めのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

③ ファスナーの端から5cm位手前でミシンを止め、針を布にさします。
押さえ上げをあげてスライダーを向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

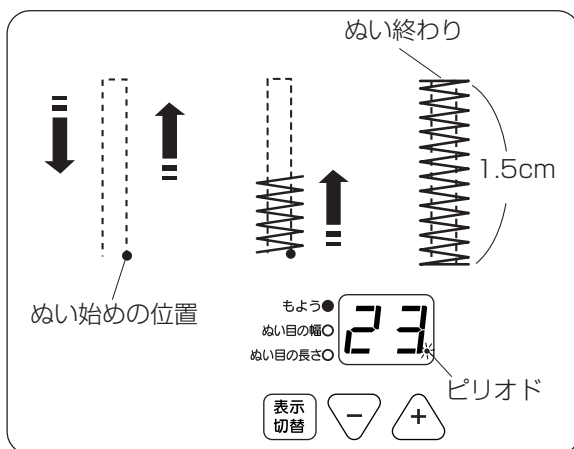
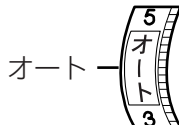
※ ぬい終わりのほつれ止めは、数針返しぬいをします。

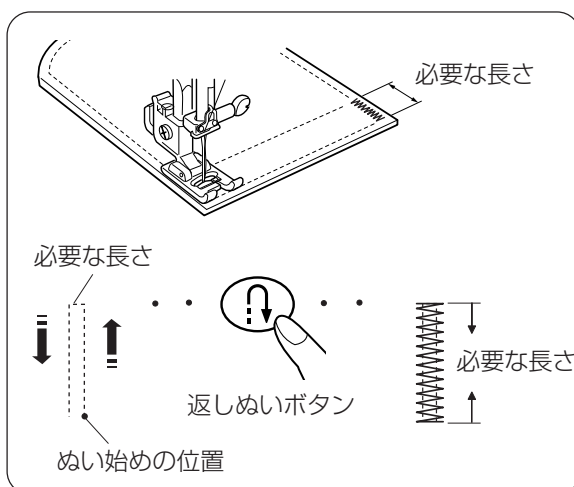
④ ファスナーをとじ、スライダーを上に倒し、上の布をファスナーの上にかぶせます。
かぶせた布と台布をしつけで止めます。

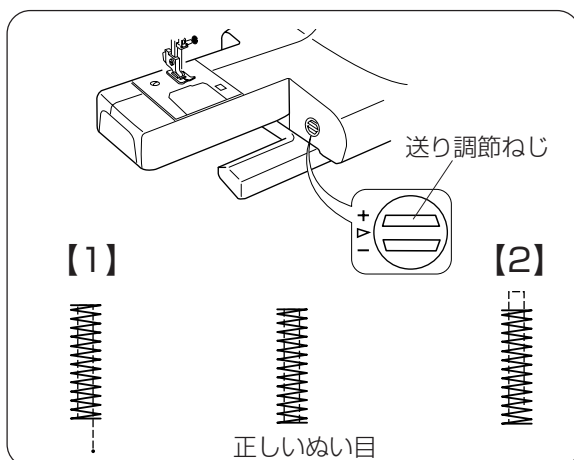
※ しつけはA:基本押さえを使用します。
ほどきやすいように、ぬい目の長さを「5.0」、糸調子ダイヤルを「1」くらいにしてぬいます。
しつけが終わったら、糸調子ダイヤルを「オート」にもどします。

⑤ 押さえホルダーをファスナー押さえの左側にセットします。
上の布のあき止まりを返しぬいし、むしのきわに押さえの端をあてていぬいます。

⑥ ファスナーの上側を5cmくらい残したところで止め、針をさげ押さえ上げをあげて、【準備】の手順②でぬったしつけ糸をほどきます。

⑦ スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順④でぬったしつけ糸をほどきます。

●かんぬき止めぬい

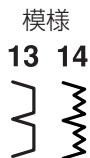
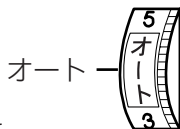
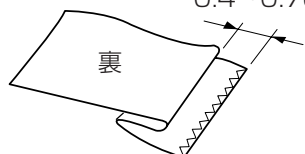
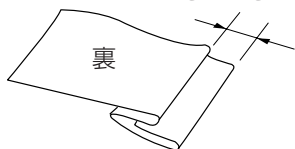
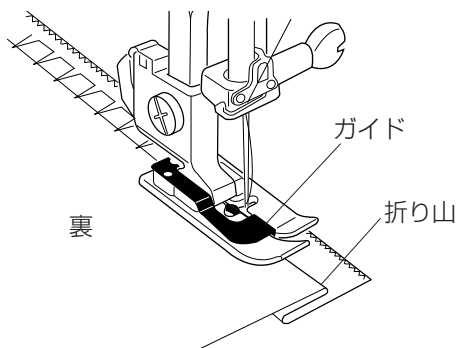
ぬい目に力がかかって、ほつれやすい部分などに使うと、ぬい目がしっかりします。
1回のぬいで長さ約1.5cmが自動的にぬえます。
※ ぬい目の幅は（1.0～5.0)、ぬい目の長さは（1.0～2.5）の間でかえられます。
※ ぬい終わると、ピリオドが点滅します。
くり返し同じ長さのかんぬき止めぬいができます。
他の模様を選ぶときや、かんぬき止めの長さをかえたいときには、「－ボタン」または「＋ボタン」を押して、ピリオドの点滅を消します。

【1.5cmより短い長さでぬう場合】

必要な長さまでぬい、「返しぬいボタン」を押して、自動的に止まるまでぬいます。

【模様位置ずれの整え方】

模様の位置がずれる場合には、実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。

【1】 ぬい始めの位置が残ってしまうとき、送り調節ねじを「＋」方向にまわします。

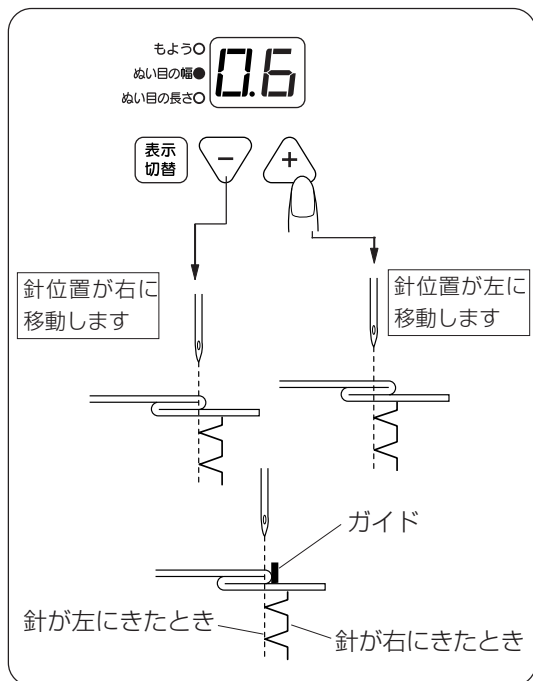
【2】 折り返し位置が残ってしまうとき、送り調節ねじを「－」方向にまわします。

●まつりぬい

布は折るときに裏を表にして下に折り込み、布端を0.4～0.7cmほどはみ出させます。

① ガイドに折り山を合わせ、針が折り山から外れないように「+ボタン」または「ーボタン」で針位置を調節してぬいます。

② ぬい終わったら布を表に返します。

※ 左側におりる針が必要以上に折り山にかかりすぎると表に出るぬい目が大きくなり、きれいに仕上がりませんので注意してください。

【 針位置をかえたいとき】

「表示切替ボタン」で「ぬい目の幅」を選択します。

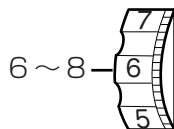
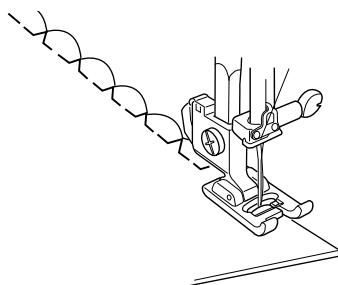
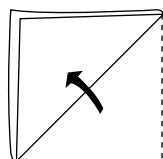
自動セットされている数値 0.6 が表示されます。

※ 表示 0.6 はガイドから針位置が左にきたときの幅を示します。

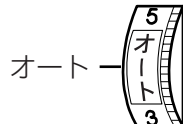
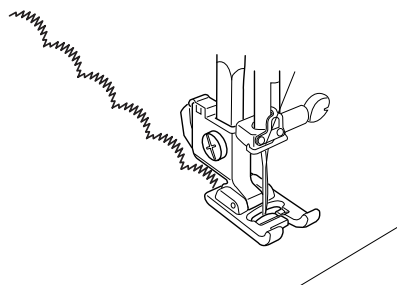
※ 模様# 13、# 14は、ぬい目の幅は変化せず模様（針位置）が左右に移動します。

針が折り山にかからない場合「＋ボタン」を押して針位置を左に移動させます。

針が折り山にかかりすぎる場合「ーボタン」を押して針位置を右に移動させます。

●シェルタック

布をバイヤスに二つ折りにします。
針が右にきたとき布の折り山のきわにおりるようにしてぬいます。
布を開き、アイロンで山を片側に倒します。

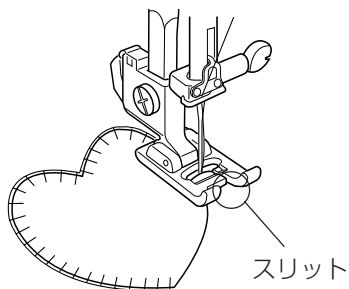
※ 糸調子は試しぬいをしてシェルタックの山がきれいになるように調節します。

●密着模様ぬい

布が縮むときは下に紙を敷くか、または、芯地を貼るときれいに仕上がります。

※ 必要な模様数の最後のぬい途中で「止めぬいボタン」を押すと、その模様をぬって自動的に止まります。

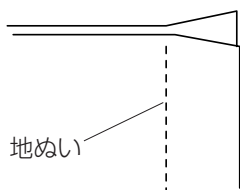
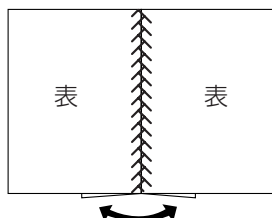
●アップリケ

ミシンのセット

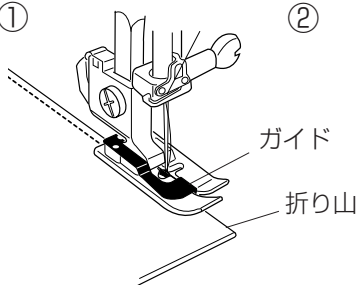
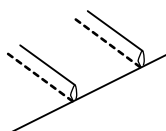
模様	表示窓	押さえ	糸調子ダイヤル	押さえ圧調節レバー
28	28	F:サテン押さえ	オート	「2」または「1」

アップリケ布を糊づけするか、しつけで止めます。
アップリケ布が針の左にくるようにし、押さえのスリットをアップリケ布のふちにそわせながらぬっていきます。

※ カーブのところや方向転換するところでは、ミシンを止め、「上下停針ボタン」を押して針を下位置にします。
押さえ上げをあげ、針を布にさしたままで方向をかえます。

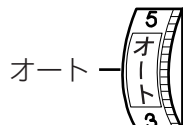
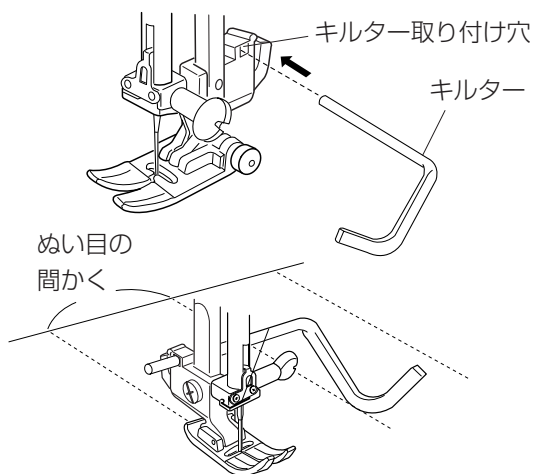
●パッチワーク

①

②

① 布を中表に合わせ、地ぬいをしてぬいしろを割ります。

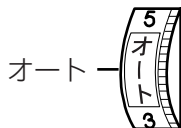
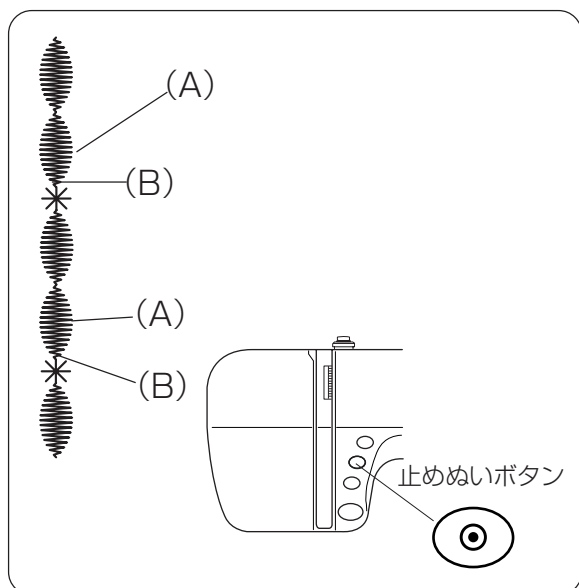
② 布の表から地ぬいの線を中心にしてぬいます。

●ピンタック

① ②

① 布の折り山をガイドに合わせてぬいます。

② ぬい終わったら片返しにして、アイロンをかけ、整えます。

●キルティング

キルターを取り付け穴に差し込み、ぬい目の間かくに合わせます。

※ キルターは、前にぬったぬい目をたどるのに使います。

●止めぬいボタンを使った飾りぬい

例.模様#25（2個）と模様#30（1個）の組み合わせ

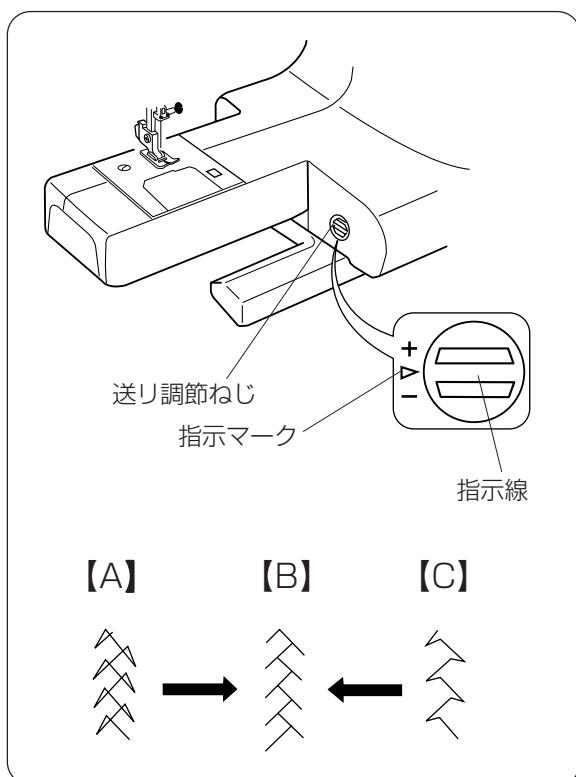
① 模様# 25 を選び、2 個目の途中 (A)で「止めぬいボタン」を押します。
模様を完成させたあと、止めぬいをして自動的に止まります。

② 模様# 30 を選びます。

③ ぬいの前 (B) に「止めぬいボタン」を押します。
（ぬっている途中で押してもかまいません。）

④ 模様#30を一つぬって、自動的に止まります。

⑤ 模様#25を選び、手順①からをくり返します。

●スーパー模様の形の整え方

※スーパー模様は、＃05、＃10〜12、＃28〜30です。

布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては、模様の形がくずれる場合もあります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをしながら、送り調節ねじで調節してください。

※標準指示マークと指示線が一致する位置が、模様を正しくぬえる目安の位置です。

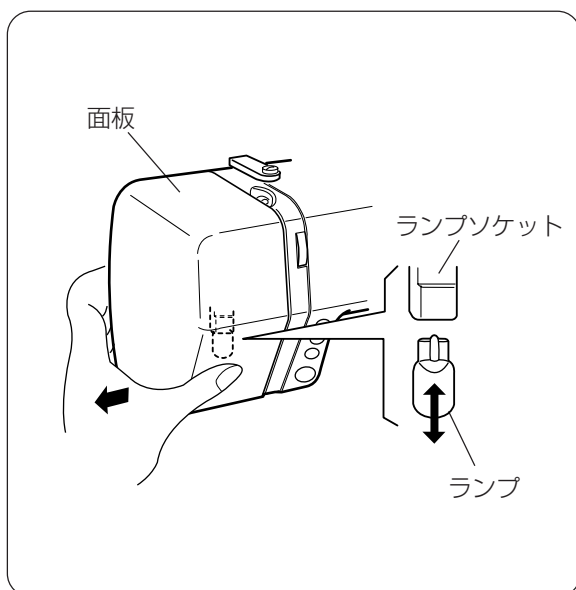
例【模様 29 のとき】

【A】　　　　　　　　　　　　【B】（形が整う）

模様がつまっているとき .... 送り調節ねじを「+」の方向にまわす

【C】　　　　　　　　　　　　【B】（形が整う）

模様が伸びているとき .... 送り調節ねじを「−」の方向にまわす

●ランプの取りかえ方

⚠ 注意

- ランプを取りかえるときには、必ず電源スイッチを切り、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- ランプは冷えてから外してください。

感電・やけどの原因になります。

《外し方》

① 面板を開きます。

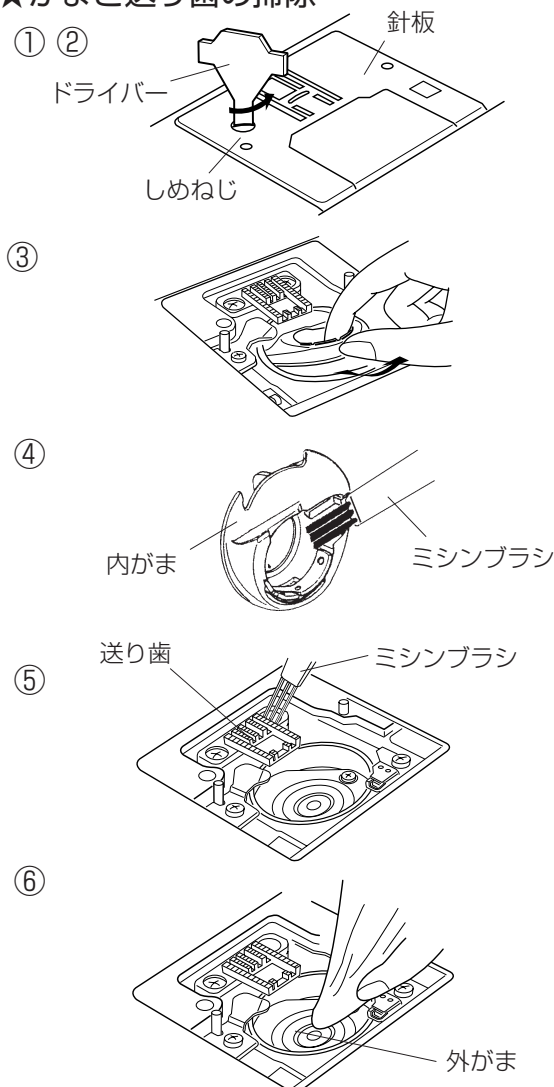
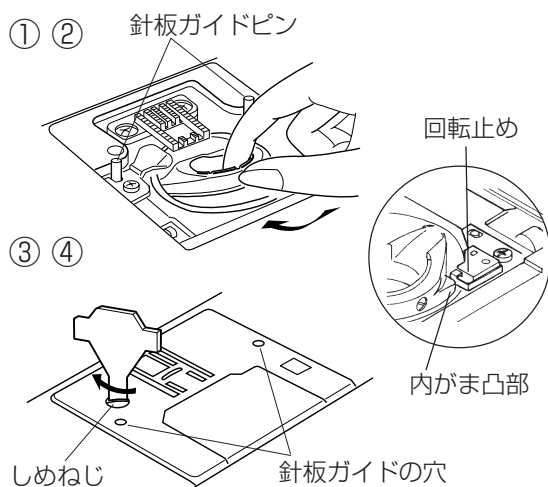
② ランプをそっと引き抜きます。

《つけ方》

① ランプをソケットの穴に合わせながら、差し込みます。

② 面板をしめます。

※ ランプの購入は、お買い上げの販売店へお問い合わせください。
ランプ品番は、000026002（12V、5W）です。
定格の異なるランプは、取り付けないでください。

●ミシンのお手入れ

> **⚠ 注意**
>
> - お手入れのときには、必ず電源スイッチを切って、コンセントから電源プラグを抜いてください。
> - お手入れのときには、説明されている箇所以外は分解しないでください。
>
> **けが、感電の原因になります。**

★かまと送り歯の掃除

① 針と押さえを外します。

② しめねじを外し、針板を外します。

③

③ ボビンを取り出し、内がまの手前を上に引きながら外します。

④

④ 内がまを、ミシンブラシなどで掃除し布切れで軽くふきます。

⑤

⑤ 送り歯のごみを、ミシンブラシなどで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

⑥

⑥ 外がまの中央部を布切れで軽くふきます。

※ 掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、電気掃除機などで吸いとってください。

★内がまと針板の組み付け

① 内がまを差し込みます。

② 内がまの凸部を回転止めの左側におさめます。

③ ボビンを入れ、2箇所の針板ガイドピンに針板ガイドの穴を合わせて、針板を取り付けます。

④ しめねじをしめます。

※ 手入れが終わったら、忘れずに針と押さえを取り付けてください。

●こんな表示が出た場合

警告音とともに下の表示があった場合、1.5秒間表示されます。
対処方法にしたがってください。

表　示	対　処　方　法
Fc	1. フットコントローラーを接続した状態で、スタート/ストップボタンを押した場合に表示されます。 スタート/ストップボタンを使用する場合には、フットコントローラーの接続を外してください。 2. ぬい中にフットコントローラープラグが外れたときに表示されます。 電源を切ってからフットコントローラープラグを差し込んでください。
Lo	安全装置の作動により、ミシンモータが1 5 秒間緊急停止しているときにボタンを押すと表示されます。しばらくおまちください。 糸がらみ等があったときには、電源を切り、不要な糸を取り除いてください。
bL	ボタンホール切替レバーをさげないでボタンホールを0.5cmぬうと、表示されます。 ボタンホール切替レバーをさげて、再スタートします。
UP	ボタンホールをぬったあとに、押さえ上げをさげたまま他の模様を選択しようとしたときに表示されます。 押さえ上げをあげ、ボタンホール押さえを外してから模様を選んでください。 安全の為、ボタンホール押さえのまま他の模様をぬわないでください。
SP	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。 糸巻き軸をもとの位置に戻すまで表示されます。
dn	押さえ上げをあげたままで、スタート/ストップボタンを押したときに表示されます。押さえ上げをさげてからスタート/ストップボタンを押してください。
E1 等	電源投入時に表示されたとき、ミシンが故障しています。 お買上げの販売店へご連絡ください。

★ブザー音の種類

ブザー音	内　　　容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了等の終了音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

●ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	その原因	直し方
上糸が切れる	1．上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところにからみいている。または、糸調子皿から上糸がはずれている。 2．上糸調子が強すぎる。 3．針が曲がっていたり、針先がつぶれている。 4．針の付け方がまちがっている。 5．ぬい始めに、上糸・下糸を押さえの下にそろえて引いていない。 6．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 7．針に対して糸が太すぎるか、細すぎる。	15ページ参照 10ページ参照 11ページ参照 11ページ参照 18ページ参照 19ページ参照 11ページ参照
下糸が切れる	1．下糸の通し方が、まちがっている。 2．内がまの中に、ごみがたまっている。 3．ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。 4．下糸がゆるく巻かれている。	14ページ参照 43ページ参照 ボビンを交換する 巻く速度を速くする
針がおれる	1．針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。 2．針止めねじのしめつけが、ゆるんでいる。 3．ぬい終わったとき、布を手前に引いている。 4．布に対して針が細すぎる。 5．模様に合った押さえを使用していない。	11ページ参照 11ページ参照 19ページ参照 11ページ参照 押さえを交換する
ぬい目がとぶ	1．針の付けかたがまちがっているか、針が曲がっている。 2．布に対して針と糸が合っていない。 3．伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ストレッチ針（市販ＳＰ針）を使っていない。 4．上糸のかけ方がまちがっている。 5．品質の悪い針を使用している。	11ページ参照 11ページ参照 11ページ参照 15ページ参照 針を交換する
ぬい目がしわになる	1．上糸調子が合っていない。 2．上糸下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分にからみついている。 3．布に対して針が太すぎる。 4．布に対してぬい目が長すぎる。	10ページ参照 14、15ページ参照 11ページ参照 ぬい目を短くする
布送りがうまくいかない	1．送り歯に糸くずがたまっている。 2．ぬい目が短すぎる。 3．送り歯があがっていない。	43ページ参照 ぬい目を長くする 8ページ参照
ぬい目に輪ができる	1．上糸調子が弱すぎる。 2．糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	10ページ参照 11ページ参照
ボタンホールがうまくいかない	1．ボタンホール切替レバーをさげていない。 2．伸縮性のある布のとき、伸びない芯地を使っていない。	26ページ参照 26ページ参照
ミシンがまわらない	1．電源のつなぎ方がまちがっている。 2．かまに、糸やごみがたまっている。 3．糸巻軸が、下糸を巻いたあと、元に戻っていない。（糸巻状態になっている） 4．フットコントローラーを接続したままでスタート／ストップボタンを押している。	4ページ参照 43ページ参照 13ページ参照 4ページ参照
音が高い	1．かまの部分に、糸くずが巻きこまれている。 2．送り歯に、ごみがたまっている。	43ページ参照 43ページ参照

※ 静かな部屋で使うと、「ウイーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 長時間使うと、表示窓と選択ボタンの部分の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

修理サービスのご案内

●お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
●無料修理保証期間内（お買い上げ日より１年間です）およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申しつけください。

修理用部品の保有期間

●当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後８年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

無料修理保証期間経過後の修理サービス

●使用説明書に従って、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過した後でも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
1）保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
2）浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
3）お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
4）お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、または改造したために不調、故障または損傷したとき。
5）職業用等過度なご使用により不調、故障、または損傷したとき。
●長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
●有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は
下記にお申しつけください。

蛇の目ミシン工業株式会社

住　所　〒193-0941　東京都八王子市狭間町1463番地
電　話　お客様相談室　0120 － 026 － 557（フリーダイヤル）
042 － 661 － 2600
受　付　平日　9：00 ～ 12：00　13：00 ～ 17：00（土・日・祝日・年末年始を除く）
ホームページ　http://www.janome.co.jp
メールでのお問い合わせ　customer@gm.janome.co.jp

仕	様
使用電圧	100V　50/60Hz
消費電力	50W/ランプ12V 5W
外形寸法	幅39cmX奥行18cmX高さ28cm
質　量	8.3kg（本体）
使用針	家庭用　HA X 1
縫速度	毎分700針 フットコントローラー使用時　毎分820針

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。